

# 令和7年度四日市スマートリージョン・コア推進協議会

## 第3回幹事会

開催日時 令和8年3月30日（月）10：30～12：00  
開催場所 四日市商工会議所 3階大会議室（オンライン併用）

### 1 議事次第

- ・議題 第1号 幹事会会員の変更について（報告）・・・・・・・・・・資料1
- ・議題 第2号 今年度のスケジュールについて・・・・・・・・・・資料2
- ・議題 第3号 ワーキンググループ（WG）の実施報告・・・・・・・・・・資料3
- ・議題 第4号 実行計画の進捗について・・・・・・・・・・資料4
- ・議題 第5号 スマートシティ実装化支援事業の報告・・・・・・・・・・資料5

### 2 各議題の説明

#### 議題 第1号 幹事会会員の変更について（報告）

本協議会幹事会会員である株式会社ディア四日市について、令和8年2月26日付けで津地方裁判所四日市支部より破産手続開始決定を受けたことから、本協議会より退会することとなりました。詳細は資料1を参照ください。

#### 議題 第2号 今年度のスケジュールについて

前回（令和7年度第2回）幹事会で提示した今年度内のスケジュール案を状況に合わせて更新しております。詳細は資料2を参照ください。

#### 議題 第3号 ワーキンググループ（WG）の実施報告

前回（令和7年度第2回）幹事会以降、データプラットフォームWG、モビリティWGを一度ずつ開催いたしました。各WGの実施状況についてご説明します。詳細は資料3-1、3-2を参照ください。

#### 議題 第4号 実行計画の進捗について

令和4年3月に策定した「スマートリージョン・コア実行計画」について、定期的に管理・見直しを行うことが記載されています。また、ロードマップとして中央通り再編事業が完了する予定の令和9年度頃を目指した目標スケジュールが記載されています。

今年度の実行計画の進捗及び、過去4年間の歩みを実行計画フォローアップ2025としてとりまとめました。詳細は資料4をご覧ください。

#### 議題 第5号 スマートシティ実装化支援事業の報告

国土交通省からの補助事業であるスマートシティ実装化支援事業について、協議会会員を中心に各種実証事業を行いました。詳細は資料5をご参照ください。

### 3 資料

資料0：次第・議案書（本紙）

資料1：四日市スマートリージョン・コア推進協議会会員名簿

資料2：今年度のスケジュールについて

資料3-1：データプラットフォームWGの実施報告

資料3-2：モビリティWGの実施報告

資料4：四日市スマートリージョン・コア実行計画フォローアップ2025

資料5：スマートシティ実装化支援事業の報告

別添1：出席者名簿

別添2：席次表

以上

## 四日市スマートリージョン・コア推進協議会会員名簿

資料①

## 幹事会役員

有識者	東京大学大学院 工学系研究科 教授 村山 顕人（座長）
	名城大学理工学部 社会基盤デザイン工学科 教授 松本 幸正
	早稲田大学 理工学術院 教授 有賀 隆
交通 関係者	近畿日本鉄道(株)
	三重交通(株)
	三岐鉄道(株)
	三重県タクシー協会／(株)三交タクシー
商工関係者 大規模権利者 事業展開企業	学校法人みえ大橋学園
	(株)近鉄百貨店
	四日市商工会議所
	近鉄グループホールディングス(株)
	近鉄不動産(株)
	(株)シー・ティー・ワイ
	(株)三十三銀行
	中部電力(株)
行政	国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所
	三重県 県土整備部 都市政策課
	四日市市（会長：副市長 荒木秀訓）

## オブザーバー

国土交通省 都市局
国土交通省 中部地方整備局
国土交通省 中部運輸局

## 賛助会員

(株)日建設計
(株)VACAN
(株)FIXER
富士通Japan(株)
FUTURE(株)
(株)マクニカ
早稲田大学

# ■ R7年度のスケジュールについて

			令和7（2025）年度									現時点
			6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0. 定例会議（市+NS+各事業者）			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1. 四日市SRC推進協議会												
幹事会					第1回幹事会 8/7				第2回幹事会 12/24			第3回幹事会 3/30
データプラットフォームWG				● 第1回 7/31					● 第2回 12/16			● 第3回 3/12
モビリティWG				● 第1回 7/29					● 第2回 12/18			● 第3回 3/11
2. SC実装化支援事業に係る報告（国交省）												
			実験計画書提出 (6月末)	(適宜実施)					中間報告 (1月末予定)	最終報告 (3月半ば予定)		
3. SC実装化支援事業												
①利活用空間活性化ツールの構築	R7	データ可視化サービスの効果検証	サウンディング実施、ヒアリング内容精査			ヒアリング		サービス内容とりまとめ			報告書作成	
			自動連携開発・コンテンツ制作とヒアリング先の決定と依頼						防災訓練と連動した周知・ヒアリング等			
②四日市版MaaSの構築	R7	四日市版MaaS上のまち歩き促進サービスの効果検証	四日市版MaaSの情報拡大構築			事前検証		効果検証のためのワークショップ実施			報告書作成	
			四日市版MaaSデータダッシュボードの構築作業									
③バーチャル空間におけるコミュニケーション・ツールの構築	R6 補正	沿道空間利用マネジメントシステムの実装化に向けた課題の明確化	社会実験 (1回目)	正式版システム（ドラフト）構築				調査項目 検討	社会実験 (2回目)	正式版システムの構築 報告書作成		
④3D都市モデルを活用したプランニング/マネジメント・ツールの構築	R7	デジタルインフラ台帳の仕様および実装メリットの明確化	デジタルインフラ台帳データの構築						実証実験、アンケート実施 報告書作成			
			マニュアル、ガイドラインの作成									

# 幹事会報告

第16回 データプラットフォームWG

---

四日市スマートリージョン・コア推進協議会

データプラットフォームWG

令和8年3月30日（月）

第1回	令和3年度	12月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表企業選定</li> <li>WG概要共有</li> </ul>	第11回	令和6年度	7月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>過年度の取り組み</li> <li>令和6年度の活動</li> </ul>
第2回		1月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>各社サービス・データ利活用紹介</li> <li>四日市版DOFのあるべき姿の検討</li> </ul>	第12回		12月6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップ開催 (テーマ 市民公園・商店街)</li> </ul>
第3回		2月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>四日市版DPFのコンセプト共有</li> <li>実行計画に記載するサービス案</li> </ul>	第13回		3月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップ結果</li> <li>大学機関の実証</li> </ul>
第4回	令和4年度	5月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度検討方針共有</li> <li>勉強会：情報銀行について</li> </ul>	第14回	令和7年度	7月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>過年度の取り組み</li> <li>国交省スマートシティ実装化支援事業共有</li> </ul>
第5回		9月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種新緑報告</li> <li>WG今後の進め方（新スキーム）共有</li> </ul>	第15回		12月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマートシティ先進都市視察会報告</li> <li>ワークショップ報告</li> <li>国交省スマートシティ実装化支援事業共有</li> </ul>
第6回		11月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種進捗報告</li> <li>WG開催について</li> </ul>	第16回		3月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度 活動報告</li> <li>令和8年度 活動計画</li> </ul>
		1月17日	WG主催ワークショップ	第17回		令和8	4月予定
第7回		3月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種新緑報告</li> <li>WSにて収集した意見の整理</li> </ul>				
第8回	令和5年度	6月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>WG活動方針</li> <li>地域団体との連携</li> </ul>				
第9回		10月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体ストラクチャー／スマート関連共有</li> <li>勉強会：他地域事例</li> </ul>				
第10回		3月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度振り返り</li> <li>国交省スマートシティ実装化支援事業共有</li> </ul>				

事業者名	備考
近鉄グループホールディングス 株式会社	
近畿日本鉄道 株式会社	
三岐鉄道 株式会社	
株式会社 三十三銀行	
株式会社 シー・ティー・ワイ	代表企業
株式会社 日建設計	
株式会社 FIXER	
株式会社 VACAN	欠席
中部電力株式会社	欠席

事業者名	備考
富士通Japan 株式会社	
株式会社マクニカ	
三重交通 株式会社	
四日市商工会議所	
国立大学法人三重大学 村田 博司	アドバイザー
国立大学法人三重大学 中村 孝夫	アドバイザー
四日市市	事務局
株式会社 日建設計総合研究所	事務局補佐

## 議 事






- 1 **令和7年度 活動報告**
- 2 **令和8年度の活動計画**
- 3 **国交省スマートシティ実装化事業 進捗報告**

## ● 「公園DX」をテーマに進行

- 四日市市中心市街地の4つの公園（市民公園、中央通り公園、鶉の森公園、諏訪公園）のリニューアルおよび新設工事に合わせテーマ設定
- 市民アンケートとフィールドワークを含むワークショップで課題抽出
- 他都市事例の視察も実施し、WGでの知見を深め、課題解消に向けたアイデアを創出
- 次年度は、実装に向けた要件・コストの洗い出しフェーズへ移行

※視察内容、抽出課題のリストは次ページ以降参照

令和7年7月31日WG資料

目的	 中央通りでオープンデータを活用した全国初のサービスを推進
概要	 中央通りで整備されている各種センサーデータ及び行政データを活用 ▶ 全国初のサービス企画及び実証実験、実装を推進する
活動テーマ	<ol style="list-style-type: none"> <li> スマートシティ先進都市視察会の開催 ・他市町事例から四日市ならではのデータ活用、新サービスを検討する</li> <li> 課題抽出及び解決型ワークショップの開催 ・これまでの課題やアイデアを整理し再開発が進行している今の新たな課題を抽出する</li> </ol>
効果	 新サービス創造のヒントやWGメンバーの議論を活性化する

 活動テーマ

**公園DXチャレンジ**

- 令和7年1月より中央通り周辺地域内で新たな公園の誕生やリニューアルが多数行われるため、令和6年度実施したワークショップで出たアイデアや公園をテーマにした新たなスマートの取り組みの検討を行う

**四日市市民公園**

- 令和6年3月からリニューアル工事がはじまりました
- シンボルとなっている「七海のかけ橋」をコンセプトにした噴水は残し、伊勢湾を描いた舗装イメージを踏襲しながらも、イベントや緊急時の利用に配慮した公園に生まれ変わります
- 公園全体で利用できる Free Wi-Fiを整備する予定です



令和7年1月完成予定

**中央通り公園のデザイン**



【テストプラン修正案（市役所前街区）】

**中央通り再編事業と関連した事業**

- 鶉の森公園と諏訪公園においても、リニューアルに向けた事業が進行中です
- 鶉の森公園では、既存樹木を守りつつ、ゆったりとした芝生広場や遊び場を整備し、のびのびと過ごせる憩いの場に、諏訪公園では、大四日市まつりをはじめとしたイベント利用と日常利用の両立を一層重視した公園に、それぞれ生まれ変わります



鶉の森公園  
令和7年度  
完成予定



諏訪公園  
令和7年度  
完成予定

	第14回	視察	ワークショップ	第15回
開催日時	2025年7月31日	2025年10月28日	2025年11月24日	2025年12月16日
開催形式	オンライン/オフライン	オフライン	オフライン	オンライン/オフライン
実施内容	テーマ共有・課題確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪うめきた公園視察</li> <li>・オープンデータ利活用勉強会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワーク</li> <li>・アイデア創出</li> </ul>	総括
詳細内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年度の振り返り</li> <li>・国交省スマートシティ実装化事業 情報共有</li> <li>・WG活動計画 共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府スマートシティ戦略部職員より事例紹介</li> </ul>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者 17人</li> <li>・アイデア数 4件</li> </ul>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視察報告</li> <li>・WS報告</li> <li>・国交省スマートシティ実装化事業報告</li> </ul>

## ● 2025年10月28日 | 視察

### 大阪うめきた公園視察

- ・ 阪急阪神不動産(株)兼一般社団法人うめきたMMO  
グラングリーン大阪・うめきた公園案内

### 大阪うめきた公園：データで“運営⇄賑わい”を回す

#### 安全・運営最適化のデータ活用

- AIカメラで危険行動を検知→即時通知→サイン改善・警備配置に反映
- 人流・混雑の傾向を季節・時間帯と突合し、イベント時期や芝生養生・レイアウトを調整

#### 来街・回遊促進のデータ活用

- ビーコン×エリア公式アプリで店舗情報をプッシュ
- 駅・商業・公園のデータ接続を見据えた“横串”設計

#### 公開・二次利用の検討

- 人流等のモニタリング結果を年1回程度公開・研究利用へ
- テナント営業や住民合意に配慮し、公開範囲・頻度は利害調整を前提に設計

### オープンデータ利活用勉強会

- ・ 大阪府スマートシティ戦略部職員より事例紹介

### 大阪府のオープンデータ活用

#### 基盤の整備

- 官民データを流通させる広域データ連携基盤（ODPO/オルデン）と、府民向けID連携・行政ポータルを両輪で整備
- 自治体オープンデータを束ね、共通フォーマットで提供

#### “集めて終わらせない”可視化

- 犯罪・子育て・Wi-Fi/トイレ等の生活情報、民間の乗降データ等をダッシュボードで見える化し、住民サービス・観光・交通計画に直結

#### 具体ユースケース

- AI交通予測（万博関連交通の平準化）／大阪エコライドサービス（CO<sub>2</sub>・渋滞抑制）／めぐろっと：観光回遊の広域最適化（府県横断ルート提案）

## ● 2025年11月24日 | ワークショップでの抽出課題

### (1) 暑さ・快適性

- ・日陰や座って休める場所が少ない  
(特に夏に涼める場所が欲しい)

### (2) トイレ・子育て対応

- ・トイレ環境への不満  
(トイレ・授乳/おむつ替え等の観点での使いづらさを示唆)

### (3) 治安・安心感

- ・治安/安全面が不安な時がある
- ・ホームレスのような人が増えたという声
- ・防犯カメラ(CCTV) ニーズ  
(「楽しく安全なCCTV! 防犯カメラ」等)

### (4) 清潔さ・ゴミ

- ・ゴミ・清潔さが気になる
- ・飲食物のゴミがベンチに放置されているという具体指摘

### (5) マナー

- ・マナーが悪い利用者がある  
(利用しづらさの要因)

### (1) 安全・防犯/安心感

- ・ゴミが落ちている(ポイ捨てが多い印象)
- ・不審者・治安への不安  
(「怪しい人が多い」等の声)
- ・ホームレスと思われる人がいる
- ・外国人のたまり場になっている  
(という見え方/不安)
- ・防犯カメラがない/不足している
- ・つまずきそうな場所がある(段差・足元の危険)

### (2) トイレ・休憩・基礎設備

- ・トイレがない/少ない
- ・トイレの場所が分かりづらい  
(案内が弱い/トイレMAPがない等)
- ・ベンチが少ない
- ・屋根付きで休憩できる場所がない  
(雨天・日差し回避がしにくい)
- ・遊具が少ない

### (3) 電源・通信(公園DXの土台)

- ・電源を取れる場所が分からない/使いづらい  
(イベント時含む)
- ・イベント時に使えるコンセントがない  
(運用面の課題)
- ・Wi-Fiなど通信環境が弱い/分かりづらい  
(「通信環境が悪い?」の指摘)

### (4) 案内・サインージ・情報提供

- ・どの方向に何があるか分かる大きな案内板が欲しい
- ・公園周辺のMAPがない/不足
- ・ケガ・災害時の対応(処置・連絡先)が分かりづらい
- ・サインージが少ない/目立たない
- ・サインージが見られていない・活用できていない
- ・何のイベントか分からない  
(表示がない/情報が不足)

### (5) ルール・マナー・運用

- ・自転車の進入禁止が分かりづらい
- ・実際に自転車が入ってきている  
(ルールが機能していない)
- ・駐輪場がない/不足

### (6) 環境・快適性

- ・虫が多い
- ・緑が少ない/芝が少ない  
(芝生エリアが小さい)
- ・床面がコンクリ中心で、転倒時のケガが心配

## ● 2025年11月24日 | ワークショップでの抽出課題 〈統合版 1/3〉

課題	解決アイデア
<b>(1) 安全・防犯／安心感</b>	
防犯カメラ不足 治安不安 ホームレス等 つまずき 自転車走行	<ul style="list-style-type: none"> <li>高価な専用設備（ゲート等）ではなく、<b>注意喚起＋通報＋運用手順</b>をテンプレ化</li> <li>機器はリース/サブスク＋電池駆動中心で、他公園へコピーしやすい</li> </ul>
<b>(2) トイレ・子育て対応（基礎インフラ）</b>	
トイレ不足 場所が不明 子育て対応が弱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>トイレ不足などはトイレを増やすといったハード整備は難しい</li> <li>行政データなどからトイレの場所などをデジタルマップなどで案内する他、開閉センサをつけてリアルタイムで利用状況を可視化</li> </ul>
<b>(3) 休憩環境・快適性</b>	
ベンチ不足 屋根なし 日陰が少ない 暑い	<ul style="list-style-type: none"> <li>気温、湿度データなどを活用し大規模な屋根整備を前提にせず、デジタルマップなどで「涼みスポットの可視化＋誘導」</li> </ul>

## ● 2025年11月24日 | ワークショップでの抽出課題 〈統合版 2/3〉

課題	解決アイデア
<b>(4) 清潔さ・衛生・マナー</b>	
ゴミ放置 ベンチに飲食ゴミ 清潔不満 マナー悪化	・スマートゴミ箱を設置しゴミの回収を最適化したり、デジタルマップで廃棄場所を案内したりする
<b>(5) 案内・情報提供</b>	
案内板不足 MAP不足 緊急時連絡不明 サインージ活用不足 イベントが分からない	・理看板ではなく公園に整備済みのサインージを活用するなどデジタルマップで案内する
<b>(6) 電源・通信</b>	
電源が取りにくい コンセント不足 Wi-Fi弱い 案内がない	・公園内の電源設備などの各種設備情報をデジタルマップで可視化する

● 2025年11月24日 | ワークショップでの抽出課題 〈統合版 3/3〉

課題	解決アイデア
<b>(7) 施設・遊び／滞在価値</b>	
遊具少ない 滞留要素がない 目的地化できていない コンセプト不明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホを活用したARやデジタルスタンプラリーなどの遊びコンテンツを提供する</li> </ul>
<b>(8) 環境（緑・虫・床面）</b>	
虫が多い 緑・芝が少ない コンクリで危険	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物理改修（芝生化等）は高コストなので、まずは <b>データに基づく対策（散布/照明/清掃の最適化） + 注意喚起</b>をテンプレ化</li> </ul>

● テーマ「公園DX」 2025年度テーマを継続・実装化のフェーズへ

- WG、WSでリストアップされた課題・アイデアを、実装を目指して案件化するフェーズへ移行
- WGメンバーの知見・技術を結集する他、市民を対象としたWSを開催し、市民ニーズに応需するDX実現を目指す



- 課題抽出
- アイデア創出

**Phase 1**  
着想の萌芽

令和7年度

- 実装に向けた要件・コストの洗い出し
- 予算化
- サービス構築 (アプリなど)

**Phase 2**  
構想の深化

令和8年度

- 実装

**Phase 3**  
計画の具現

令和9年度

スマートリージョン・  
コア推進計画の描く  
将来像の実現

- 交通利便性
- 健やか賑わい
- 快適安全
- データ利活用

将来

## ● スケジュール

	第17回	第18回	第19回
開催時期	5～6月	10～11月	令和9年3月中旬
開催形式	オンライン/オフライン併用		
出欠確認	WGのメーリングリストにて、開催のおよそ1カ月前にご連絡		
実施内容	<b>テーマ共有・課題確認</b>	<b>ソリューション提案</b>	<b>WSレビュー</b>
詳細内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度実施報告</li> <li>・現在のステータス確認</li> <li>・抽出された課題の共有</li> <li>・提案・項目の共有</li> <li>・公園DXワークショップに対するソリューション提案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業者より提案発表（事前提出）</li> <li>・WSのテーマ・議題検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WS実施報告</li> <li>・実装へむけての提案</li> </ul>

● 〈参考資料〉 ソリューション事例 (1/2)

投稿システムの利活用例

その1

地域情報



● 〈参考資料〉 ソリューション事例 (2/2)

**お悩み**  
「うちの市はマイカーが主な交通手段で事故防止にも力を入れていきたいのですが…」(G市)

## ヒヤリハットデータの活用

損保会社が提供する専用センサーを活用し市民100人の車での走行データを収集  
市内の危険箇所を探し出し啓発に利用。今後、指定通学路とも重ね合わせし分析予定

**急ブレーキ  
急発進  
急ハンドルなど**

急ブレーキ発生件数: 5

**〈注意喚起・啓発として〉**  
公用車を運転する職員、車を運転する一般市民、自転車や徒歩で移動する一般市民への注意喚起

**〈他にも活用できるのでは〉**  
例えば、視覚障がい者や聴覚障がい者、肢体不自由者、高齢者や歩行困難者に対して、相対的に安全な移動経路についての情報発信としてデータを活用できるのではないか

取組①

**利活用空間利用者等に対するデータ提供実証実験を実施**

不動産業界など人流データ提供の需要が高いと思われる業種へ  
サウンディング調査やヒアリング調査を行い  
実装に向け提供方法や料金設定等を明確化し実装につなげる

取組②

**災害情報コンテンツ効果検証を実施**

津波警報などの緊急災害情報を四日市データプラットフォームと連携  
緊急時には市民公園サイネージに緊急情報を割り込みアナウンスし、  
来街者にとっても安心安全な中央通りを実現する

# ● 取組① | データ可視化サービス実装に向けた市場調査

## ● データ可視化サービス概要

### ニワミチポータルサイト



ニワミチよっがいち  
SMART REGION CORE  
<https://niwamichi-yokkaichi.com/>



### データ可視化サービス +tableau+public

イベント分析
Wi-Fiアンケート
車両
人流



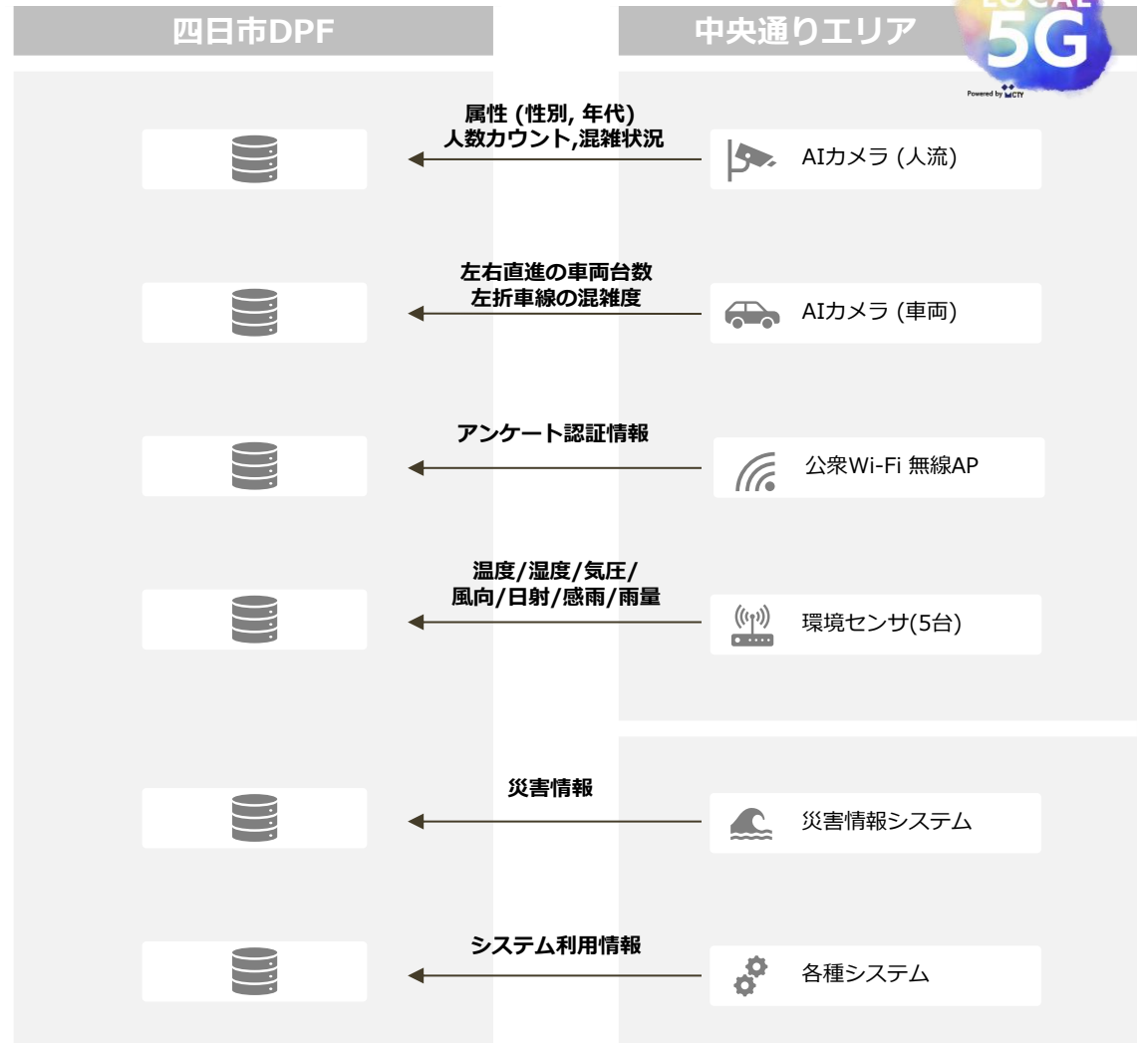



### デジタルマップサービス Platinumaps



中央通りエリアマップ

データ活用



● 取組① | データ可視化サービス実装に向けた市場調査

- 蓄積データ | 令和5～6年度に整備を行ったセンシング危機から収集しているデータ項目

AIカメラ		単位	データ間隔
人数カウント	通行人数IN	人	1分
	通行人数OUT	人	1分
混雑検知	平均人数	人	1分
	状態	1(空いている) 2(やや混雑) -1(混雑)	1分
属性カウント	年代	人	1分
	性別	人	1分
車両カウント	左折車両数	台	1分
	右折車両数	台	1分
	直進車両数	台	1分
車両渋滞検知	平均速度	km	1分
	状態	1(順調) 2(やや渋滞) -1(渋滞)	1分

公衆Wi-Fi		単位	データ間隔
年代		人	1分
性別		人	1分
地域		人	1分

環境センサ		単位	データ間隔
気温		℃	1分
湿度		%RH	1分
現地気圧		hPa	1分
海面気圧		hPa	1分
風向		deg	1分
風速		m/s	1分
最大瞬間風速時 風向		des	1分
最大瞬間風速		m/s	1分
日射		W/m <sup>2</sup>	1分
感雨		-	1分
1分間雨量		mm	1分
1時間雨量		mm	1分
降水強度		mm/h	1分
連続雨量		mm	1分
実行雨量		mm	1分
暑さ指数		℃	1分
天気		-	1分

● 取組① | データ可視化サービス実装に向けた市場調査

● 実証実験結果

検証項目「価格設定が適切との回答が6割以上」に関して未達

検証項目	検証方法	目標(KPI)	概要	判定
データ可視化サービスの効果検証	データ検証実証実験 (アンケート調査)	・ 5段階評価でデータの市場価値があるとの回答が5割以上	キッチンカーの事業者など市内の事業者20以上にアンケート調査を実施	○
		・ 価格設定が適切との回答が6割以上		△

① 5段階評価でデータの市場価値があるとの回答が5割以上

- ・ 広告代理店、不動産業界、大学研究機関など事業者37社から回答取得
  - ↳ 関心の深い事業者20社からは、データの価格相場感の回答取得
- ・ 人流、交通、気象データ種別を「活用」「試験的に活用」「検討中」の回答が7割
  - ↳ 「人の属性データ（年代、性別など）」は、AIカメラや公衆Wi-Fiでの取得データ提供可
  - ↳ 販促最適化や需要予測、広告効果測定など営業計画に直結する利用目的

② 価格設定が適切との回答が6割以上

- ・ 「月額コスト5万円まで」「月額5～20万円まで」の回答が約2割で同率
  - ↳ 「月額50万円以上」の回答はゼロ
- ・ 「案件・期間による」の回答が6割

## ● 取組① | データ可視化サービス実装に向けた市場調査

### ・ ビジネスモデル (案)

#### パターン①データプラットフォームAPI連携サービス型

ターゲット事業者：都市計画研究所など大学及び民間研究機関向け  
 データプラットフォームに蓄積をされたすべての生データにAPI連携による直接接続を行い、自社独自のデータベースと直接連携を行い自由にデータの掛け合わせによる分析を行うことができるサービス

初期費 ・データプラットフォームAPI連携システム開発費用 50万円～  
 ※要件により開発費用は異なる／費用は目安

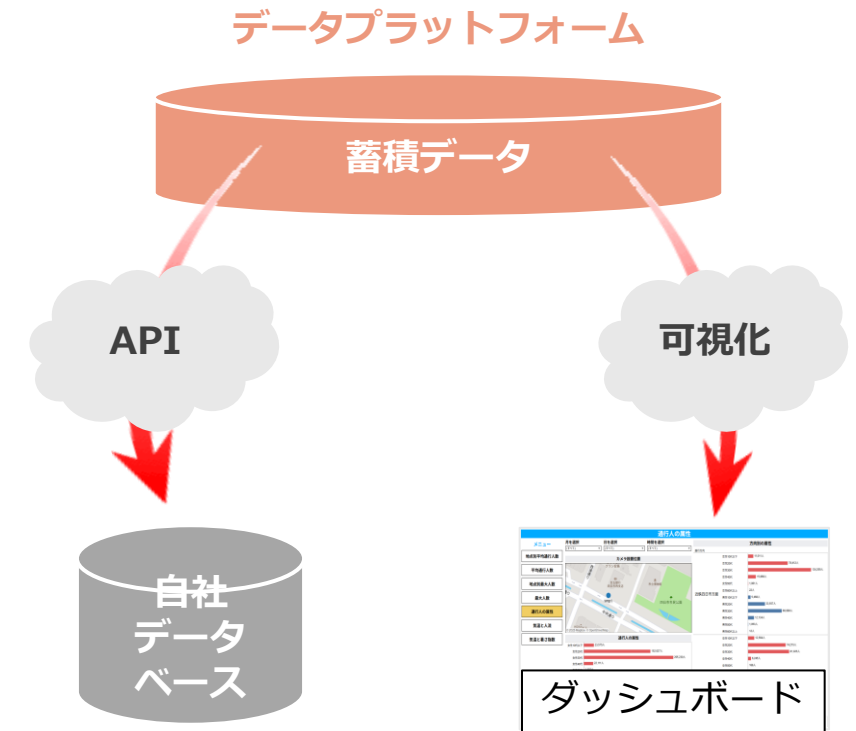
利用料 ・データプラットフォームAPI連携サービス利用料：200万円／年

#### パターン②可視化ダッシュボードサービス型

データプラットフォームに蓄積されたデータを各業界ごとの要件に合わせてダッシュボードで可視化するサービス  
 ※自社独自データベースと直接連携を行うことはできない

初期費 ・可視化ダッシュボード個別対応費：50万円～  
 標準テンプレートを利用の場合は不要

利用料 ・可視化ダッシュボードサービス基本利用料：10万円／月  
 ・可視化ダッシュボードサービス個別対応分利用料：1万円／月  
 ※データ更新及び個別ライセンス費用含みます



例：研究施設で独自研究データと掛け合わせて研究発表などに活用

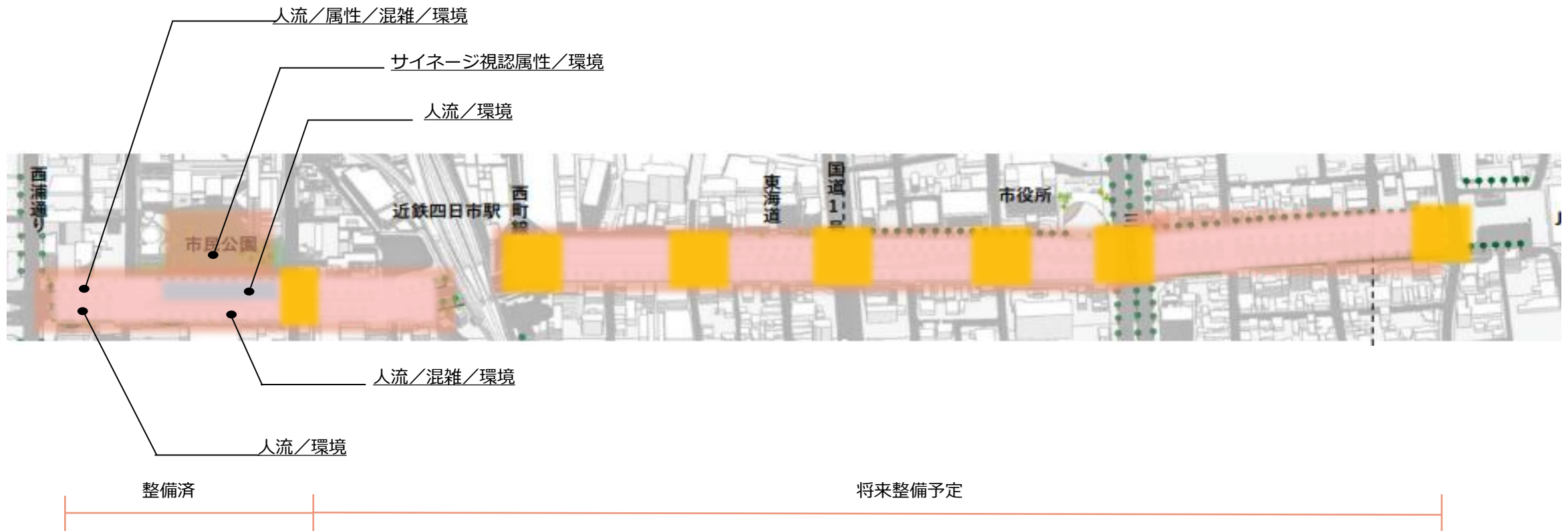


例：配信場所、価値の根拠として活用 (広告代理店の場合)

利用シーン

## ● 取組① | データ可視化サービス実装に向けた市場調査

- 将来展望（ビジネス展開方法）  
 人流、交通、環境データ収集用各種センサの中央通り全域整備は、最短でも令和9年度中の整備であるため  
 令和8、9年度にデータ可視化サービスPR活動など知名度向上を推進し  
 令和10年度有償化本格サービス開始を目標に検討を進める
- 下図、令和7年度時点での各種センサ整備状況



## ● 取組① | データ可視化サービス実装に向けた市場調査

### ・ 令和8年度、9年度活動計画

#### 施策1：データプラットフォーム維持管理費用の見直し検討及び蓄積データ種別の増加

- ・ データプラットフォーム維持管理を見直し管理費用の低減を検討する。
- ・ 事業別コスト分配ルールの検討を行いデータプラットフォームを利用するであろう事業者を整理しコスト分配のルールを設定する。
- ・ 様々なニーズに対応すべく人流、交通、環境データ以外の庁内データなど蓄積データ種別を増やし豊富なデータを提供する。

#### 施策2：センサ機器維持管理経費の低減検討

- ・ より安価なセンサ機器採用の検討を行い維持管理費用を低減する。

#### 施策3：データプラットフォームと連携したサービスの拡大と蓄積データの拡大

- ・ データプラットフォームに蓄積するデータを増加させ、幅広い業種に興味関心を引いてもらう必要がある。
- ・ スマートインフラの整備推進に加え、アプリなどの地域課題の解決に資するサービスをデータプラットフォームに連携させることが必要不可欠である。

#### 施策4：四日市中央通り版データビジネス完成に向けた取り組み及び認知度向上に向けたPR活動

- ・ ニワミチよっかいちポータルサイトへの四日市中央通り版データビジネスの紹介を掲載。
- ・ 都市計画学会への人流、交通データのPR活用を行い認知度を上げる。  
また、関係する学会・研究者等と連携しワークショップやアンケートを実施しデータビジネスモデルの熟度を上げる。
- ・ 中央通りを実験フィールドとした都市・交通・環境計画、気候変動関連、その他関係する分野の研究者と、データを活用した共同研究を行い成功事例を作る。
- ・ 大規模展示会へ参画し四日市中央通り版データサービスのPR活用を行い認知度を上げる。

#### 施策5：エリアマネジメントの一環としてのデータ利活用の推進

- ・ 今後、上記の施策を官民連携でニワミチのエリアマネジメントの一環として推進することが考えられる。
- ・ 公共空間での取得データの情報管理、各種データの編集・発信等も含めて、今後の主体と役割を検討する必要がある。

上記のようにデータの活用を推進することは、データによる収益を見込めるだけでなく、街の課題が客観的な数値として可視化され、都市計画立案に大きく寄与する。このため、公共による利用も促進し、結果的に不足する収入を賄う。また、多角的なデータが蓄積されることで、公共セクターのみならず、民間事業者による自発的な課題解決も促進され、ひいては、地域全体のまちづくりの精度をより高めていくことが可能になる。民間による利用が拡大していくことで、公共の負担が減少していくことを見込む。

## ● 取組② | 災害情報コンテンツ効果検証を実施

目的



中央通り来街者の緊急安全確保の実現

概要



来訪者を対象に緊急性の高い災害情報をオープンデータ化し  
中央通りに公共機関及び民間事業者が整備したサイネージとの  
システム連携を強化する

整備内容



### 令和6年度

- ・ 市民公園サイネージ整備
- ・ サイネージを活用した災害時の  
即自的な情報伝達実験の実施

### 令和7年度

- ・ 緊急性の高い災害情報のオープンデータ化
- ・ 公共機関が保有する市民公園サイネージと  
災害情報連携
- ・ 中央通り周辺事業者へのニーズ調査

効果



### 即時に避難行動を促進できる

- ・ 駅前, 商業施設, イベント会場など、  
人が密集するエリアは混乱しやすい
- ・ スマホに気づかない、バッテリー切れ、通信障害の  
場合でも**目に入る形で情報を届けられる**
- ・ 通常の防災無線よりも**視覚的で、気づきやすい**  
→災害時に「情報の気づき格差」を大きく減らせる

### ピンポイントの避難誘導

- ・ サイネージが設置されている位置に応じて、  
**最も近い安全な避難場所**を特定し表示できる
- ・ 津波等の災害種別に応じて、適切な避難方法を  
案内可能  
→「何をすればいいか迷う時間」を最小化

● 取組② | 災害情報コンテンツ効果検証を実施

● 災害情報発信の必要性

「理論上最大クラスの南海トラフ巨大地震」による津波の浸水想定浸水深の目安



## ● 取組② | 災害情報コンテンツ効果検証を実施

### ● 実証実験の概要

- 中央通りでサイネージを保有する事業者へオープンデータ化された災害情報の優位性を周知
- 事業者においては、事業者保有のサイネージとの連携方法についてAPIなどを案内し親和性や連携手順についてアンケート回答を取得し、課題を抽出



## ● 取組② | 災害情報コンテンツ効果検証を実施

### ● 実証実験結果

検証項目	検証方法	目標(KPI)	概要	判定
データ可視化サービスの効果検証	災害情報連携の水平展開の可能性調査 (アンケート調査)	・ 公共・民間が管理するデジタルサイネージを対象として、導入コスト(超概算)及び技術面の課題等を提示したうえで、災害情報連携の可能性があるとの回答を被験者の5割以上から得る	中心市街地の範囲において、デジタルサイネージを所有または今後整備予定の公共機関及び民間企業にアンケート調査を行う(サイネージ10箇所程度を想定)	○

#### - 災害情報自体の可能性について意義があるとの回答が100%

- ・ データプラットフォームに蓄積されたデータとサイネージとの連携の可能性に「非常に意義がある」「意義がある」との回答が100%
- ↳ サービスの魅力についてポジティブな評価であり、受容性は高いと考える

### ● 将来展望

- データ可視化サービスの知名度向上、露出強化
  - ・ ニワミチよっかいちポータルサイトへのデータ提供サービス掲載
- 行政機関による民間サイネージの活用
  - ・ 行政資産でサイネージを保有するのではなく、民間事業者のサイネージの活用によってデバイス整備費、維持費を削減し必要な情報を必要な場所に届ける仕組みを構築する

## 第13回WG 令和7年7月29日（火）

- R7年度自動運転実証実験について
- R7年度四日市版MaaS事業について
- 対外活動について
- 意見交換

・令和7年度の自動運転実証実験及び四日市版MaaS事業の方針共有、および今後に関する議論を実施

## 第14回WG 令和7年12月18日（木）

- R7年度自動運転実証実験について
- R7年度四日市版MaaS事業について
- ワークショップ
- 意見交換

・令和7年度の自動運転実証実験及び四日市版MaaS事業の進捗状況の共有、MaaSデータダッシュボードの活用ワークショップ、および今後に関する議論を実施

## 第15回WG 令和8年3月11日（水）

- R7年度自動運転実証実験の結果共有
- R7年度四日市版MaaS事業の結果共有
- 四日市版MaaSの3年間の取組まとめ
- R8年度以降の取り組み方針の共有

・令和7年度の自動運転実証実験及び四日市版MaaS事業の結果共有と振り返り、および令和8年度以降の四日市版MaaS事業に関する議論を実施

### ◆ R7年度自動運転実証実験の結果共有

#### R7年度自動運転実証実験の詳細について

### 検証概要

#### ① 実装時の走行予定区間での実施

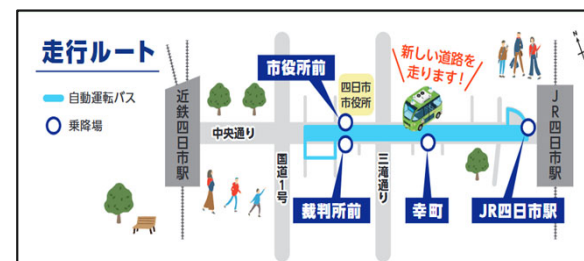
令和7年10月下旬に中央通りの車線が南側に集約されたことから、完成した道路での実証にて社会受容性の醸成を図り、走行環境の検証を実施

#### ② 新たに搭載されたAIカメラによる信号機の色認識

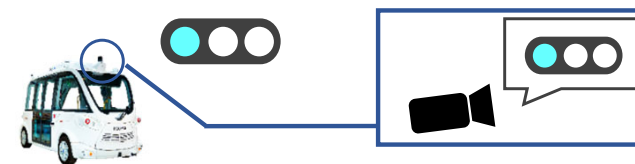
道路交通法において、信号は灯火の色相判断が必要であり、L4認可でもバス側での色相認識が必要機能である  
今年度の実証実験では、車両に搭載されたAIカメラによる信号機の色認識能力を検証

#### ③ 運転状態の可視化

利用者が車内において、手動運転か自動運転かを視覚的に確認できる仕組みを導入



R7年度ルートマップ



※イメージ



運転状態を可視化するランプ

### ◆ R7年度自動運転実証実験の結果共有

#### R7年度自動運転実証実験の予約システムについて

- 予約システムの利便性向上について、引き続き検討

### 改修概要

#### ① 予約システムへのアクセス経路の統一

過年度の実証実験では、「スマートシティポータルサイト」と「CTYコネクト（アプリ）」の2箇所ログインの入り口が分散していたが、利用者の迷いを防ぐため、スマートシティポータルサイトからのログインに統一した。

#### ② 操作画面の改修

利用者が直感的に操作できるよう、情報の配置や視覚デザインの改修を行い、視認性と操作性の向上を図った。例えば、お子様の乗車に伴うジュニアシートの要否確認について、過年度の「自由記述方式」から「選択方式」へと変更を実施。これにより、利用者の入力負担を軽減するとともに、運行管理者側における正確な属性情報の把握（データ収集）が可能となった。

#### ③ スマートシティポータルサイト上での運行情報の表示

過年度はSNS投稿による情報発信に留まっていた運行状況について、ポータルサイト上での閲覧機能を実装。

乗車時の連絡事項

ジュニアシート（1台）利用を希望

車いす（1台）利用者の乗車

自由記入 0/50

その他、乗車時にサポートが必要なことがあればご記入ください。（例：体の不自由な方や、外国語の通訳等のサポート）

ジュニアシートの選択



スマートシティポータルサイトのお知らせ欄

### ◆ R7年度自動運転実証実験の結果共有

#### 自動運転実証実験の結果

#### 社会受容性

乗車前と乗車後の印象	自動運転の安全性	自動運転の実装期待
<p>n=133</p> <p>2% 33% 65%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 良くなった</li> <li>■ 変わらない</li> <li>■ 悪くなった</li> </ul> <p>・新車両の性能、及び、道路環境の向上により、乗車後の印象は良くなる傾向であったと考えられる。</p>	<p>n=133</p> <p>3% 47% 97% 50%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 安心</li> <li>■ どちらかといえば安心</li> <li>■ どちらかといえば危険</li> <li>■ 危険</li> </ul> <p>・車両のセンサ性能の向上と車両自体の乗り心地改善により、利用者の高い安心感に繋がったと考えられる。</p>	<p>n=133</p> <p>2% 20% 98% 78%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 期待する</li> <li>■ 少し期待する</li> <li>■ あまり期待しない</li> <li>■ 期待しない</li> </ul> <p>・昨年度と同様に実装の期待は9割以上と高い結果となった。</p>

16日間で延べ505名に乗車いただき、アンケート回答者からも多くの肯定的な評価が得られた。今年度の実証実験では、**高い自動運転率（約95%）が達成**でき、**乗り心地の改善も図ることができた。**

#### 技術的検証

#### ②新たに搭載されたAIカメラによる信号機の色認識

・AIカメラによる識別は、天候や日差しの影響を受けることなく、通行判断を行う上で有効であることが確認でき、今後のソフトアップデートにて更にブラッシュアップされる。

・今後は、信号がある交差点や横断歩道において、自動運転車両が安全かつ円滑に通過するために、信号協調システム※と今回実施したAIカメラによる信号機の色認識を併用した走行が必要であると考えられる。

※信号協調システム：

信号機から提供される信号の  
残秒数により通行判断を行うシステム



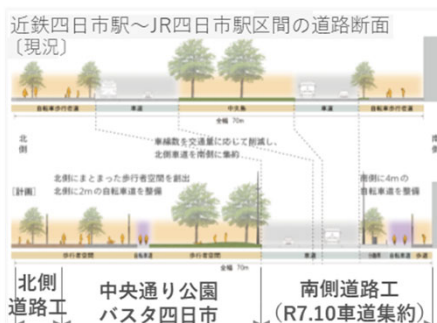
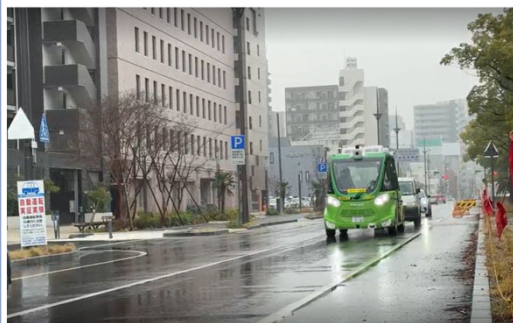
第15回WG 令和8年3月11日(水)

## ◆ R7年度自動運転実証実験の結果共有

### R7年度の実証実験を通しての気づき

- 多様なモビリティが混在する環境下で自動運転バスを運行するにあたり、自動運転の専用道整備は有効であるが、道路構造の変化に伴い他のモビリティの動きが変化することも、自動運転の走行において、優位に働くことが分かった。

### 車線の整備



過去の実証実験では、路上駐車回避のための手動介入や、後続車からのクラクションによる催促などの事象が確認されていた。今年度は、中央通りの車線が整備（南側への集約・車線減少）といった道路整備の効果もあり、路上駐車が減少し、高い自動運転率を達成。また、後続車とのトラブルもなかった。

### 自転車専用道の整備



自転車専用道が整備されたことで、自動運転車両の隣を自転車が追い越す際の、障害物検知に伴う減速が生じないため、安全面だけでなく乗り心地の面からも優位性があった。

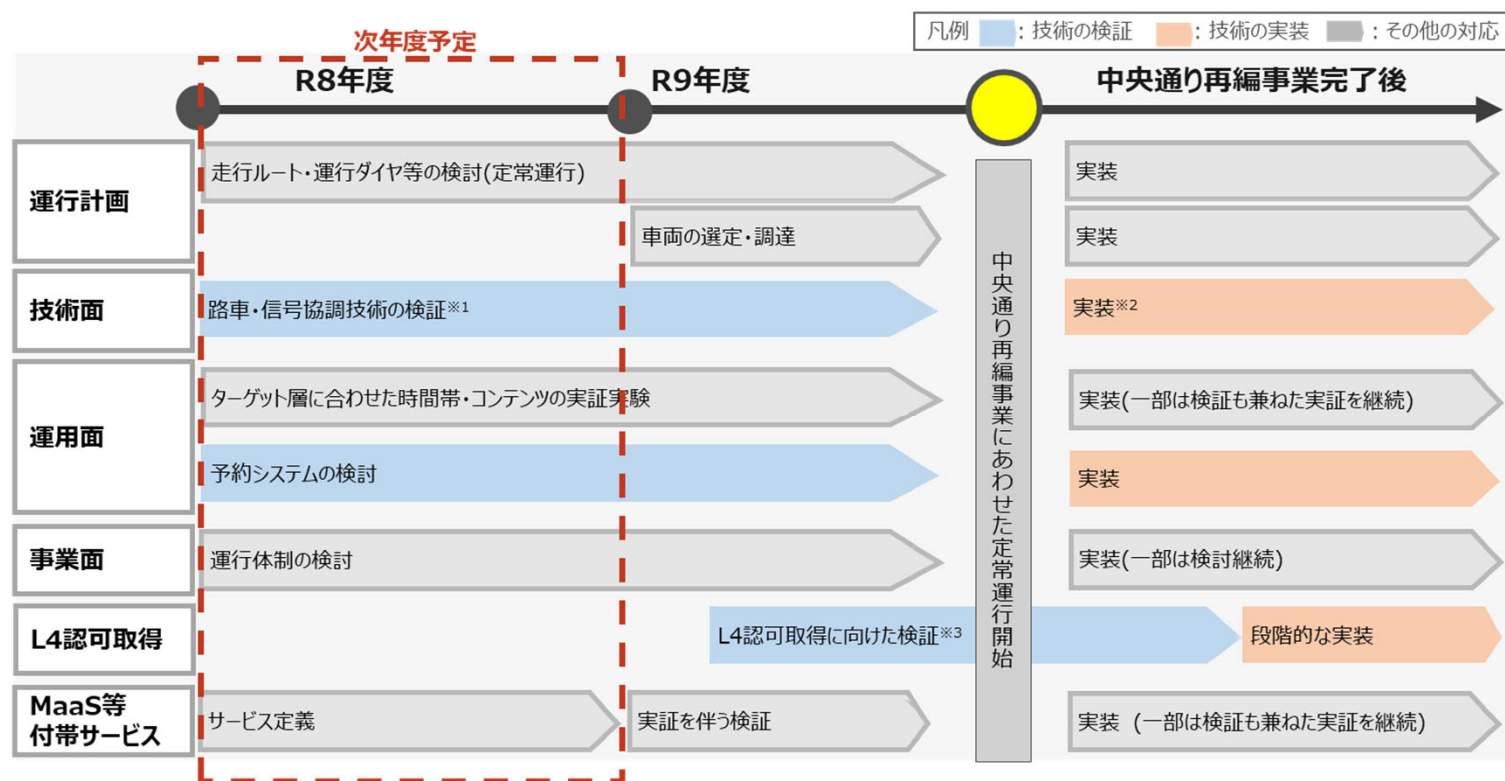
自転車による交差点以外での横断が抑制され、自転車を要因とするヒヤリハットはゼロとなった。

## 第15回WG 令和8年3月11日 (水)

### ◆ R7年度自動運転実証実験の結果共有

#### R8年度以降の実証実験計画について

- まずは、中央通り再編事業にあわせた、レベル2での定常運行の実現を目指し、課題整理を図る。その実績を積み上げながら、レベル4での自動運転や、収益確保に向けた継続的な検討を行う。
- 来年度は、定常運行に向けた検証を進めるため、過去に実施していない期間・時期における実証実験を計画



※1) 現在の道路空間上で実施 ※2) ルート決定後、中央通りの工事完了区間から順次実施 ※3) 走行路が大幅に変化しなくなった時期に、走行環境検証を開始

## 第15回WG 令和8年3月11日 (水)

### ◆ R7年度四日市版MaaS事業の結果共有

- R7年度では四日市版MaaSの拡充と四日市版MaaSに連携・蓄積されたシステム利用実績データや、交通データを分析・可視化するダッシュボードの構築
- ワークショップにより、今後のダッシュボード改善・活用に向けた多くの示唆が得られた

#### 取り組み①

### 四日市版MaaS機能の拡充

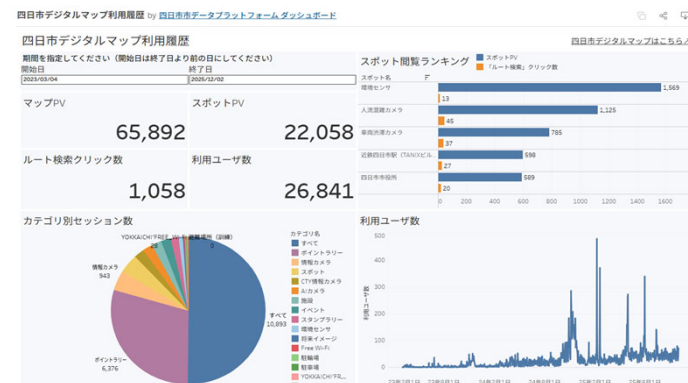
- 既存情報（駐車場）の拡充
- 新規情報（駐輪場・観光資源・イベント情報 公共施設情報）



#### 取り組み②

### MaaSデータダッシュボードの構築

- 四日市デジタルマップ利用履歴
- バスの運行状況（平均遅延情報）の可視化
- 公共交通の乗降データの可視化
- 駐車場満空データ蓄積による使用率の可視化



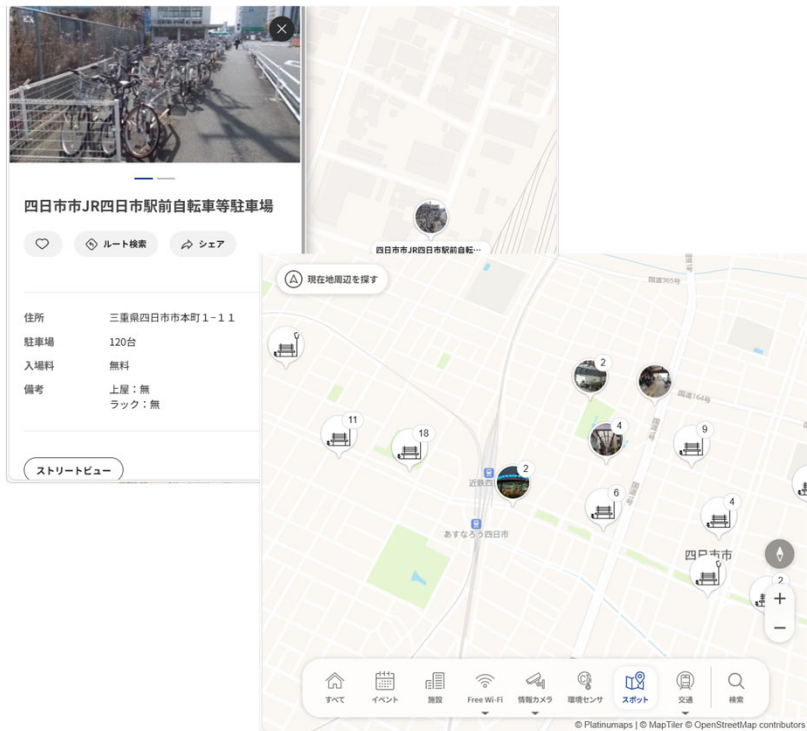
第15回WG 令和8年3月11日(水)

## ◆ R7年度四日市版MaaS事業の結果共有

### 取り組み①：四日市版MaaS機能の拡充

#### ■ スポット拡充

- ・ 駐車場の満空情報の追加
- ・ 公共の駐輪場情報の追加
- ・ 公共交通で行ける観光資源の追加
- ・ 特定地区内のベンチ情報の追加



#### ■ 自動運転実証実験連携

12月9日(火)～26日(金)まで実施した自動運転実証実験との連携

- ・ 自動運転バスの位置情報をマップ上に表示
- ・ 自動運転バスの混雑状況をマップ上に表示
- ・ 自動運転バスの乗車予約システムと連携
- ・ Google Mapと連携した経路探索に、自動運転バスの移動を追加



### ◆ R7年度四日市版MaaS事業の結果共有

#### 取り組み①：四日市版MaaS機能の拡充

##### ■ イベント連携

2025年10月19日(日)に四日市港で開催された「BAURAミーティング」と連携し、会場までの移手段としてレンタサイクルの利用を促すことで、こにゅうどうレンタサイクル利用者の増加検証を行った。

- デジタルマップにサイクリングルート、BAURAミーティングバナー、イベント関連スポット追加
- ポータルサイト内でのデジタルマップ掲載



##### ■ 告知

四日市版MaaSの周知活動を実施

- インスタ広告
- ポータルサイト内での告知
- 各施設にてチラシ・ポスターの掲示



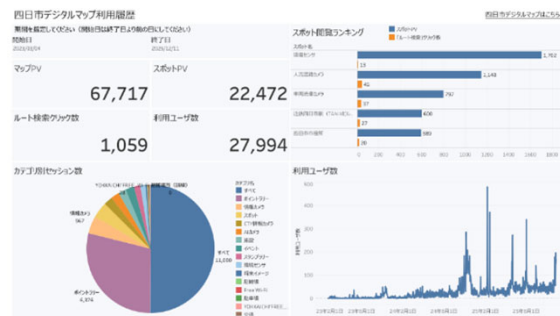
### ◆ R7年度四日市版MaaS事業の結果共有

#### 取り組み②：MaaSデータダッシュボードの構築

##### ■ 四日市デジタルマップの利用履歴 (公開範囲：オープン)

四日市デジタルマップの利用実績の可視化

- 四日市デジタルマップへのアクセス数
- スポット閲覧数/ランキング
- 利用ユーザー数



##### ■ 駐車場使用率 (公開範囲：四日市市)

駐車場の使用率の可視化

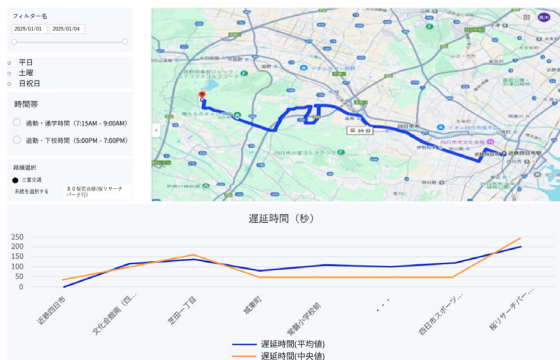
- 駐車場毎の時間/日毎の駐車場使用率
- 平日/休日別の平均駐車場使用率



##### ■ バス運行状況 (公開範囲：三重交通、四日市市)

バスの運行状況の可視化

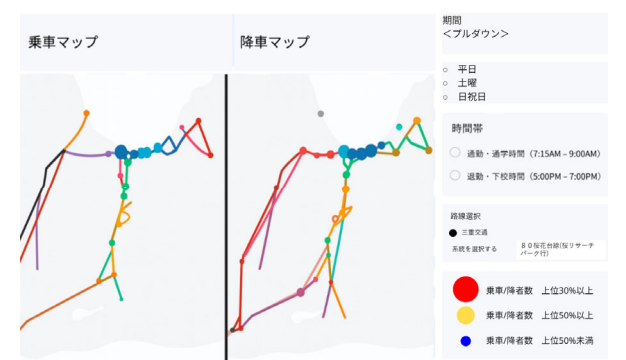
- バス停毎の平均遅延時間
- 路線別
- 時間帯別
- 平日/休日別



##### ■ バス乗降者数 (公開範囲：三重交通、四日市市)

バスの乗降データの可視化

- バス停別の乗降者人数のヒートマップ
- 路線別
- 時間帯別
- 平日/休日別



## 第15回WG 令和8年3月11日 (水)

### ◆ R7年度四日市版MaaS事業の結果共有

#### 実証実験の結果：KPI

- ダッシュボードの有用性、四日市版MaaSの満足度においてはKPIを達成した。一方、スマートシティポータルサイトへのアクセス数、施設利用者数の増加においてはKPIが未達となった。

検証項目	検証方法	目標	判定
①MaaSデータダッシュボードの有用性	アンケート調査	5段階評価で各カテゴリの設問に対して、5割以上が肯定的(スコア4以上)の回答 ・ユーザーインターフェースの観点 ・継続利用性の観点	○
②スマートシティポータルサイトへのアクセス数	四日市デジタルマップのアクセス数を計測	新規情報構築後のアクセス数が5,000件/月以上 (2025年10月～2026年1月)	△
③四日市版MaaSの満足度	アンケート調査	5段階評価で各カテゴリの設問に対して、5割以上が肯定的(スコア4以上)の回答 ・ユーザーインターフェースの観点 ・有用性の観点	○
④施設利用者数の増加	こにゅうどうレンタサイクルの利用者数を計測	過年度のイベント時の利用者(28人)と比較して、利用者が23人※増加(目標利用者数51人) ※前年度イベント来場者数(約2,300人)の1%、JR・近鉄側で相互利用可能なため、全体で23人増を目標	<div style="background-color: #444; color: white; padding: 5px; text-align: center;">                     前回WGで 報告完了                 </div> △ (貸出台数37台)

### ◆ R7年度四日市版MaaS事業の結果共有

#### 実証実験の結果：KPI①MaaSデータダッシュボードの有用性

#### ■ オープンデータダッシュボード（四日市デジタルマップの利用履歴）

##### ● 回答者属性

アンケート回答者：  
モビリティWG参加者（n=20）

##### ● 結果

下記の項目のアンケートを実施

1. 使いやすさ
2. 情報の分かりやすさ
3. 情報の有用性
4. 情報の見やすさ
5. 継続利用性

いずれの項目においても肯定的な評価（スコア4以上）が5割以上得られた。

#### 評価と今後の改善方針

ワークショップを通じて、ダッシュボードの有用性自体は一定評価される一方、「使いやすさ」「分析の深さ」「活用の広がり」の観点で、今後の改善・発展に対する具体的な期待が多く寄せられた。これらの意見は、内容の性質や検討の粒度に応じて、以下の3つの方向性に整理できる。

##### Phase1：見やすさ・操作性の改善

-“迷わず使える／見落とさない”状態にする-

- 利用デバイスによる表示差や、画面の見づらさに関する指摘が多く、利用環境を選ばない操作画面の最適化の重要性が示唆された
- 閲覧したいデータに素早くたどり着ける絞り込み機能など、直感的な操作感が求められている

##### Phase2：分析の切り口拡張

-“利用動向の要因が読み取れる分析”の強化-

- 利用ユーザー数などの数値を確認するだけでなく、「なぜ増えたのか／減ったのか」を読み取れる情報への期待が見られた

##### Phase3：新たな価値の創出

-“可視化ツール”から“戦略ツール”へ引き上げる-

- ダッシュボードを単なる確認ツールではなく、施策検討や地域戦略に活用できる基盤として期待する意見が見られた

### ◆ R7年度四日市版MaaS事業の結果共有

実証実験の結果：KPI①MaaSデータダッシュボードの有用性

#### ■ クローズデータダッシュボード（駐車場使用率・バス運行状況・バス乗降者数）

##### ● 回答者属性

種別	公開範囲
駐車場使用率	四日市市
バス運行状況	三重交通、四日市市
バス乗降者数	三重交通、四日市市

##### ● 結果

各ダッシュボードにおいて、下記の項目のアンケートを実施

1. 使いやすさ
2. 情報の分かりやすさ
3. 情報の有用性
4. 情報の見やすさ
5. 継続利用性

いずれの項目においても肯定的な評価（スコア4以上）が得られた。

##### ● ヒアリングでの評価

###### <駐車場使用率>

データを直感的に把握できる点が、現状把握の手段として有用であると評価された。今後、天候情報などの条件設定や凡例を充実させることで、より直感的で意思決定に活用しやすいダッシュボードへ発展することが期待される。

###### <バス運行状況>

バス遅延状況を路線・区間単位で直感的に把握できる点が、現状把握やダイヤ改正への有用性として評価された。今後、ダイヤ別表示や集計方法の選択肢を充実させることで、分析の柔軟性が高まり、より幅広い活用が期待される。

###### <バス乗降者数>

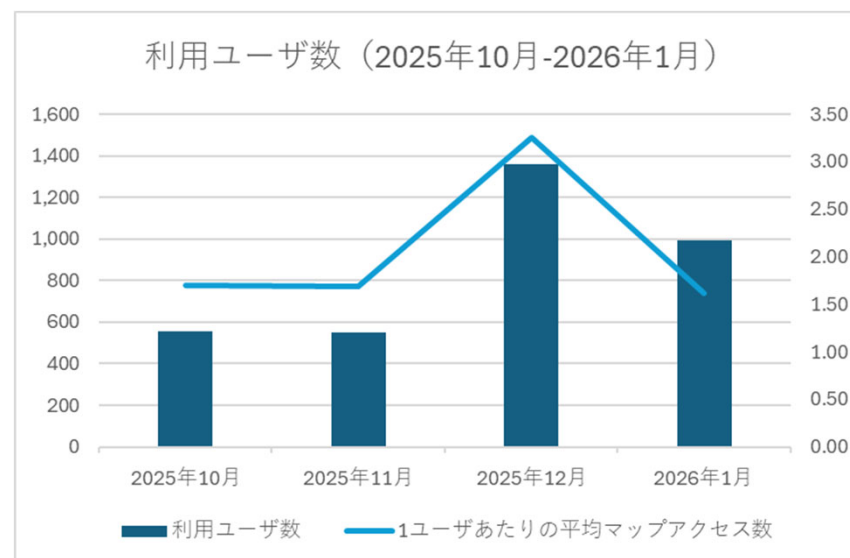
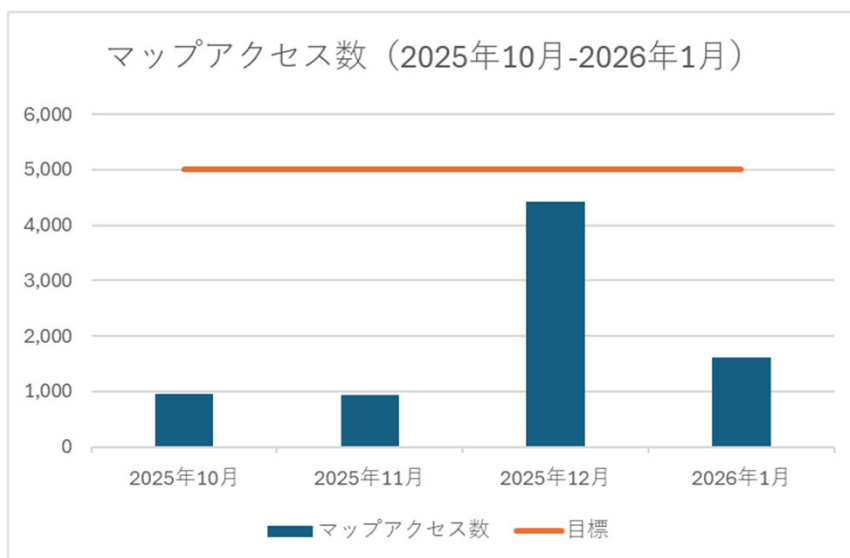
視覚的に分かりやすく、施策検討に有用なダッシュボードとして高く評価された。加えて、バス停利用者の累計や区間ごとの通過人員など、より具体的なボリューム感を示す表現が加わることで、さらなる活用が期待される。

## 第15回WG 令和8年3月11日(水)

### ◆ R7年度四日市版MaaS事業の結果共有

#### 実証実験の結果：KPI②ポータルサイトへのアクセス数

- 2025年10月～2026年1月のマップアクセス数は、月平均5,000件以上を目標としていたが、実績は月平均1,976件にとどまり、目標未達となった。
- 主な要因として、当初計画していた店舗情報の掲載について、掲載後の更新を含む運用体制を確立できず、想定していた月間2,000～3,000件程度のアクセス増加が得られなかったことが挙げられる。
- 一方、12月に自動運転実証実験に合わせた周知活動およびインスタ広告を実施した結果、単月のアクセス数は4,420件まで増加し、利用ユーザ数・1ユーザあたりの閲覧頻度も高い水準を示すなど、周知施策による一定の利用促進効果が確認された。



## 第15回WG 令和8年3月11日 (水)

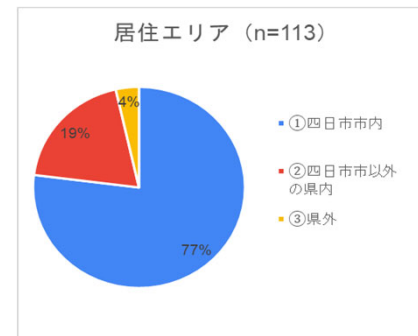
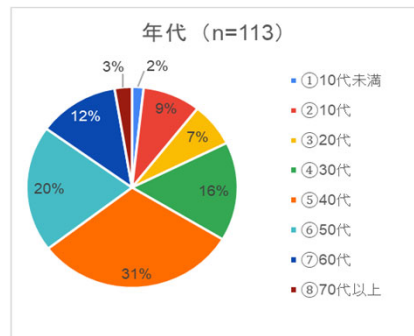
### ◆ R7年度四日市版MaaS事業の結果共有

#### 実証実験の結果：KPI③四日市版MaaSの満足度

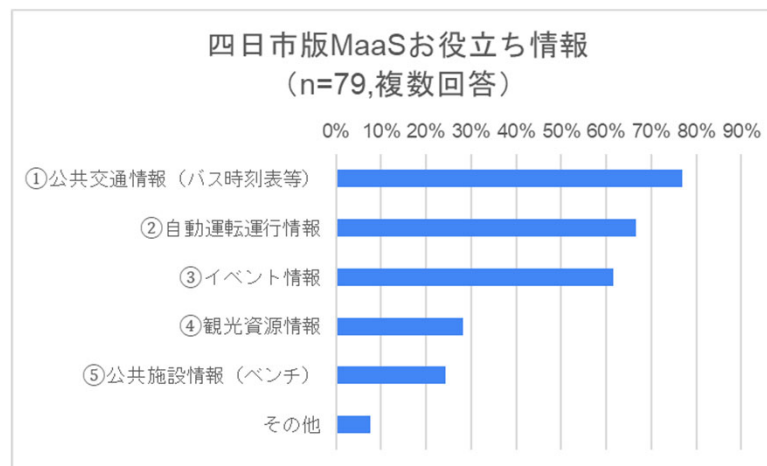
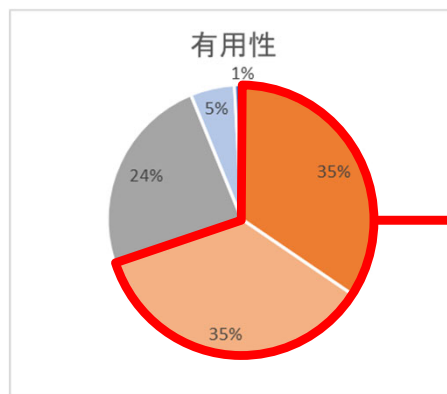
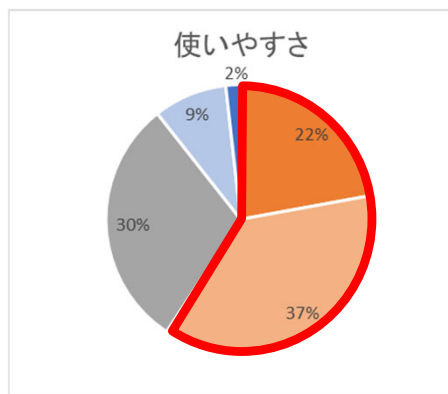
- 「使いやすさ」、「有用性」のいずれの評価も5割以上肯定（スコア4以上）となった。また、四日市版MaaSが役に立つと回答した方（有用性でスコア4以上のn=79）のうち、具体的に役立つ情報としては『公共交通情報（バス時刻表等）』『自動運転運行情報』が6割以上を占めた。このことから、交通情報を充足させることがデジタルマップの満足度につながると考えられる。

#### ● 回答者属性

アンケート回答者：  
12月実施の自動運転実証実験（別事業）の乗車後アンケートを回答した方(n=133)のうち、デジタルマップを認知している方(n=113)



#### ● 結果


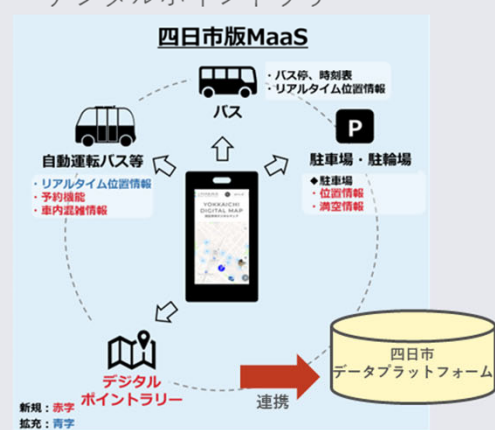
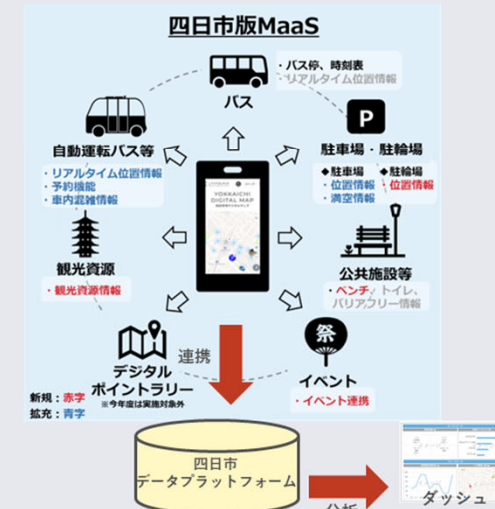


## 第15回WG 令和8年3月11日 (水)

### ◆ 四日市版MaaSの3年間の取組まとめ

#### 取組概要

- 四日市版MaaSは、3年間にわたり段階的な実証を実施してきた。
- 初年度は市民の行動変化や受容性を把握することを目的に実証を行い、2年目には四日市版MaaSのプロトタイプを構築、その有効性を検証、3年目には得られた知見を施策判断に活かすための基盤整備を進めた。

	R5(2023)年度	R6(2024)年度	R7(2025)年度
取り組みの位置づけ	回遊のきっかけづくり	行動を広げる仕組みづくり	データを活かす仕組みづくり
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自動運転バス等実証実験と連携したデジタルスタンプラリー</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 四日市版MaaSプロトタイプ構築</li> <li>• 四日市データプラットフォームとの連携</li> <li>• 商店（クーポンの提供）と連携したデジタルポイントラリー</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MaaS機能拡充</li> <li>• MaaSデータダッシュボード構築</li> </ul> 

## 第15回WG 令和8年3月11日(水)

### ◆ 四日市版MaaSの3年間の取組まとめ

#### 結果

- 3年間の実証を通じて、市民の回遊行動やモビリティ利用が、イベント等のきっかけにより発生・拡大することを確認した
- 一方で、利用は特定の施策や期間に集中する傾向が見られ、日常的・継続的な利用に向けた設計や運用が重要であると考えられる

	R5(2023)年度	R6(2024)年度	R7(2025)年度
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>• デジタルスタンプラリーを通じて、回遊行動が確認された</li> <li>• 回遊を促すMaaSの取り組みを通じて、自動運転等を含むモビリティが一定程度利用された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• デジタルポイントラリーの参加者数は前年度より増加したが、設定した利用者数の目標には未達となった</li> <li>• 回遊は中心エリアから周辺エリアへ一定程度確認されたが、広がりには限界があった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ダッシュボードの構築により、MaaSデータを可視化した</li> <li>• デジタルマップの利用は、イベント実施月に増加する一方、平常時には利用が伸び悩む傾向が確認された</li> </ul>
考察	<ul style="list-style-type: none"> <li>• デジタルスタンプラリーを契機に回遊行動とモビリティ利用が確認され、MaaS施策が両者を結びつける可能性が示唆された</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 利用者は増加したものの、目標達成には至らず、ターゲットを明確にしたうえでサービスを育てていく必要性が明らかとなった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日常的な利用定着に向けては、機能拡充だけでなく、情報更新や運用体制を含めた整理・検討が不可欠である</li> </ul>

### ◆ R8年度以降の取り組み方針の共有

#### 3年間の実証実験で得られた成果・課題

##### 成果

1. 回遊性の向上  
目的設定や徒歩×公共交通の組み合わせにより、回遊行動の促進が確認された。
2. モビリティの需要  
デジタルマップ上で提供するモビリティ情報は利用ニーズが高く、MaaSの中核的な価値となることが確認された。
3. ダッシュボードの有用性  
MaaSデータの可視化により、現状把握や施策検討への活用可能性が確認された。

##### 課題

1. 継続利用につながる価値設計  
イベント施策による利用増は一時的にとどまるため、日常的に参照される価値設計が必要。
2. 利用者拡大に向けたターゲット設計  
利用者層の拡大と継続利用に伸びしろがあるため、ターゲット別にニーズを踏まえた情報・機能設計が必要。
3. 運用体制の整理  
情報更新や運用負荷への対応が十分でないため、安定提供を見据えた中長期的な運用体制の整理が必要。

#### 四日市版MaaS取り組み方針

##### 方針1：継続運用が可能な公共交通情報を軸とした情報基盤の構築

利用者評価の高い公共交通情報や自動運転の運行情報を中核に、鉄道・バス等の交通情報を四日市版MaaS上で一元的に整理・集約し、日常の移動時に「参照される情報基盤」への転換を図る

##### 方針2：日常的・継続的に利用されるコンテンツの設計

イベント施策による認知拡大は継続しつつイベント依存から脱却し、利用実態に基づく改善を通じて、日常的・継続的な利用と自然な回遊行動の創出を目指す

### ◆ 第3回モビリティWGにおいて事業者から出された主な意見

#### ① 自動運転実証に関する意見

自動運転は安全を最優先とすべきであり、AIカメラによる信号機の色認識は、今後の実装に向けて重要な要素になっていくとの意見があった。

また、今回の結果は特定の時期・天候条件下で得られたものであり、今後は雨天等を含む多様な条件下での検証を重ねていくことで、より実装に近づいていくのではないかと期待が示された。

自動運転率95%という結果は一定の成果と受け止められる一方で、将来的な実装を見据えると、100%に近づけていくことが重要である。「安全」と「安心」の両面から検討を深めていくことが望ましいとの意見があった。

#### ② MaaSに関する意見

MaaSの閲覧数・利用者数については、今後、どのような利用状態を目指していくのかという観点から、KPIの考え方を整理していくことが有効ではないかとの意見が出された。

また、イベント時の利用に加え、日常的・定常的に利用されるサービスとして育てていく視点が、今後の発展につながっていくのではないかと認識が共有された。

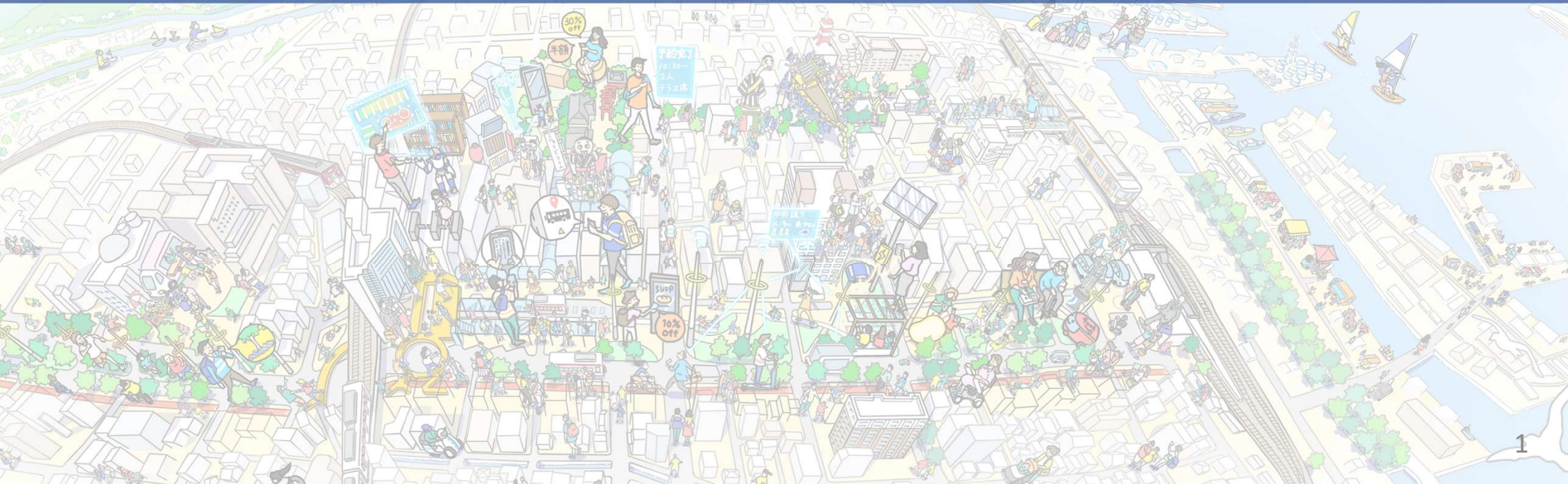
#### ③ WG間連携に関する意見

交通系データを扱うモビリティWGと、AIカメラや環境データを扱うデータプラットフォームWGが連携することで、回遊や移動といったテーマを、より多角的に分析できる可能性があるのではないかと意見があった。こうした連携により、行動変容といった観点も含めた検証につながっていくことが期待されるとの声が挙がった。

いただいたご意見をもとにR8年度以降の取り組みについて検討を進める

# 四日市スマートリージョン・コア実行計画 フォローアップ2025

(2026年3月現在)



# CONTENTS

はじめに . . . 3

実行計画の概要 . . . 4

I. 2025（令和7）年度の主要トピック . . . 5

- ・スマートシティ実装化支援事業が最終年度に
- ・四日市市の新たなシンボル「よんまるテラス」がオープン
- ・整備区間における実証実験の実施

II. 四日市の中心市街地 ～ここが変わった  
2022 (R4) ⇒2025 (R7) . . . 7

- ・中心市街地～ここが変わった2022 (R4) ⇒2025 (R7)
- ・参考資料

III. 12の取り組み内容の進捗と今後の予定 . . . 12

- 01 ウォークابل・ネットワーク、交通結節拠点としてのスマート・バスタの整備
- 02 待ち時間や移動時間を楽しめるモビリティの導入
- 03 ウォークابل+ウェルネス環境の展開
- 04 パブリックスペースの可能性最大化
- 05 インタラクティブなストリートファニチャー
- 06 災害に強い中央通り
- 07 人流誘導による商店街活性化
- 08 スマート図書館
- 09 メタバース（デジタルツイン）
- 10 データプラットフォーム
- 11 3D都市モデル
- 12 スマート・インフラ

IV. KPIの達成状況 . . . 24

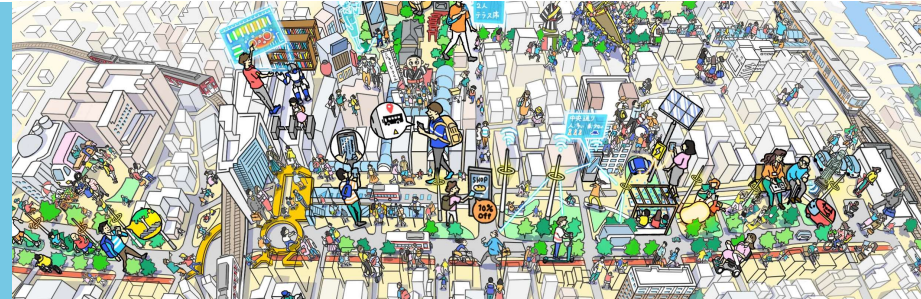
V. 関係者一覧 . . . 26



# 実行計画の概要

<実行計画の目標>

## 四日市スマートリージョン・コア ～都市軸と新たな「市（賑わい）」の創出～

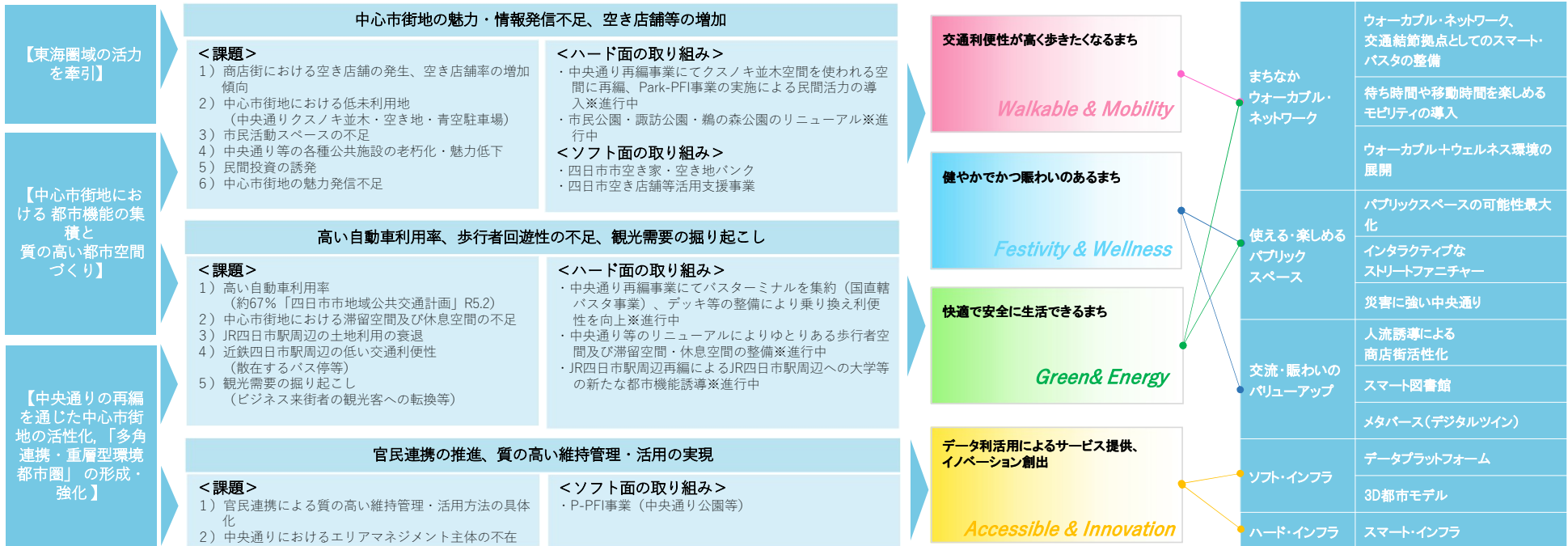


<未来像>

<未来像実現のために解決すべき課題・既往の取り組み等>

<スマートリージョン・コアの実現を通じて目指す将来像>

<スマートシティ実行計画における12の取り組み>



## I. 2025（令和7）年度の 主要トピック

- スマートシティ実装化支援事業が最終年度に
- 四日市市の新たなシンボル「よんまるテラス」がオープン
- 整備区間における実証実験の実施

## ● スマートシティ実装化支援事業が最終年度に

実行計画に示された12の取り組みと中央通りで進む公共空間再編事業を踏まえた課題に対応するため、スマート・インフラの整備や四日市版MaaSの構築などを含む4つのスマート関連の取り組みメニューを設定し、国土交通省の「スマートシティ実装化支援事業（都市サービス実装タイプ）」に応募し、2023（令和5）年6月に採択を受けました。

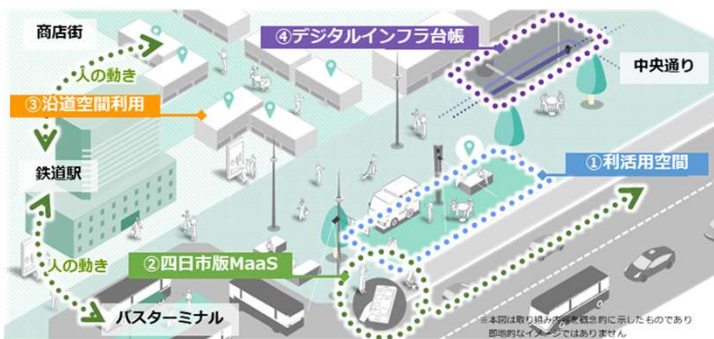
同事業は、3か年に渡り採択を受けて継続し、今年度が最終年度となり、4つの事業について以下のサービスを実装します。

### ① 利活用空間活性化ツールの構築

中央通り（人通り・気候・道路の情報等）の状況がリアルタイムで分かり、イベントの促進に寄与する必要なデータが得られるサービスを構築

### ② 四日市版MaaSの構築

徒歩と公共交通機関での移動に付加価値を付け、まちなかの回遊性を促すサービスの構築



### ③ 沿道空間利用マネジメントシステムの構築

誰もがチャレンジできる場を提供するため、気軽に利用できる広場や歩道、空き店舗を可視化し、貸し借りができるサービスを構築

### ④ デジタルインフラ台帳の構築

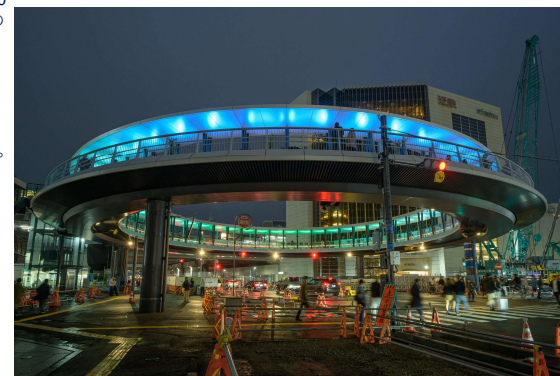
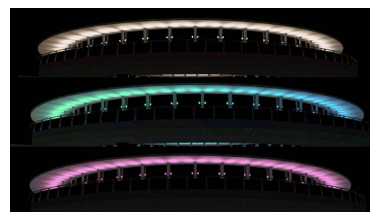
沿道の土地利用を促進するため、中央通りの地下埋設物に係るデジタルインフラ台帳を整備し、開発にかかる関係者間の調整を支援するサービスを構築

※本図は取り扱った内容を概念的に示したものであり、即時的なイメージではありません

## ● 四日市市の新たなシンボル「よんまるテラス」がオープン

中央通り再編事業におけるまちを眺める視点場や待ち合わせ場所としての機能をもつ円形デッキの工事が完成し、2025（令和7）年12月20日に供用を開始しました。1万件を超える応募の中から愛称として「よんまるテラス」が選ばれました。

円形デッキの照明は光の三原色でプログラムでき、春なら桜のようなピンクにするなど多彩な色の表現が可能で、色が流れるように動く演出も含めて季節やイベントでの演出が可能です。



照明は、上から電球色、山や海をイメージする「ニワミチカラー」、春の桜など、様々な色を表現できる

## ● 整備区間における実証実験の実施

中央通りの先行整備区間等を対象に、2025（令和7）年5・6月にニワミチJOYnt Park Days、12月に自動運転実証実験を実施し、並行して2025（令和7）年度のスマートシティ実装化支援事業の実証を行いました。

### ニワミチ JOYnt(じょいんと) Park Days（5/31～6/1）

中央通り再編により生まれる公共空間（幅員の広い歩道部、バスター東海道広場、中央通り公園）を想定し、ステージや体験会、テントブース、キッチンカーなど市民等の参加による様々な活動でまちの賑わいを生み出していくための社会実験を行いました。

出店にあたっては、沿道空間利用マネジメントシステムを試行しました。



### 自動運転実証実験（12/9～26）

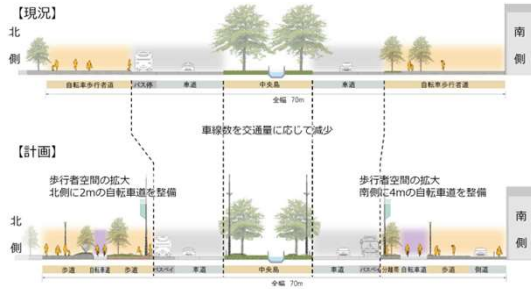
新しく供用を開始した中央通りの走行環境下で自動運転バスの実証実験を行いました。期間中、車両の位置情報や混雑状況をデジタルマップ上に表示するとともに、乗車予約システムとも紐づけ、四日市版MaaSの利便性を検証しました。



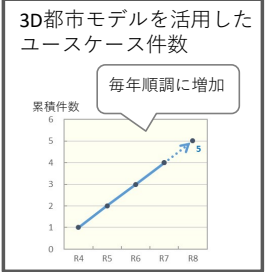
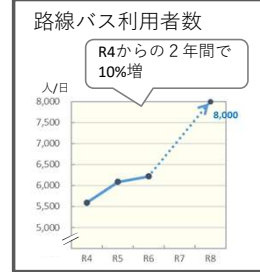
## Ⅱ. 四日市の中心市街地 ～ここが変わった 2022(R4)⇒2025(R7)

# 四日市の中心市街地 ～ここが変わった (2022(R4) ⇒ 2025(R7))

## ■中央通りの変化



## ■定量的な効果



## ■スマートシティサービスの実装

中央通り沿道におけるスマート・ポールの整備 (AIカメラ、環境センサ等)

### ■利活用空間活性化ツールの構築



スマート・ポールに設置したAIカメラや環境センサ等を通じて、中央通り沿いの混雑・渋滞状況、歩行者の流動量、暑さ指数など、収集されたデータをリアルタイムにポータルサイトで見ることができます。

### ■沿道空間利用マネジメントシステムの構築



中央通り沿いの利活用空間を対象として、使いたい人と使ってほしい人同士をマッチングするシステムです。

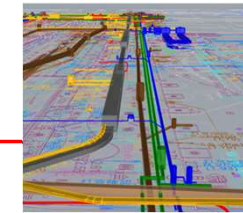


### ■四日市版MaaSの構築



中心市街地のバスの位置情報、自動運転バスの予約、駐車場の満空情報、観光資源やベンチ、駐輪場等の情報を一元化した四日市版MaaSを構築しました。公共交通に係る情報から施設に係る情報までひとつの端末で得られ、中心市街地の移動やまち歩きに活用できます。


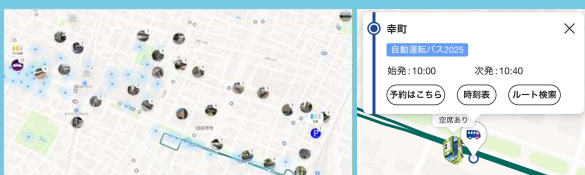


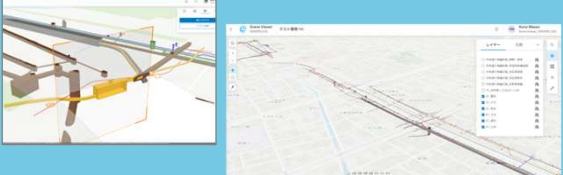
### ■デジタルインフラ台帳の構築



中央通りの地下埋設物を3Dで確認できるデジタルインフラ台帳を整備しました。今後の地下インフラ維持管理業務の効率化や災害時対応への活用、沿道土地利用の促進が期待されます。

# 四日市の中心市街地 ～ここが変わった (2022(R4) ⇒ 2025(R7))

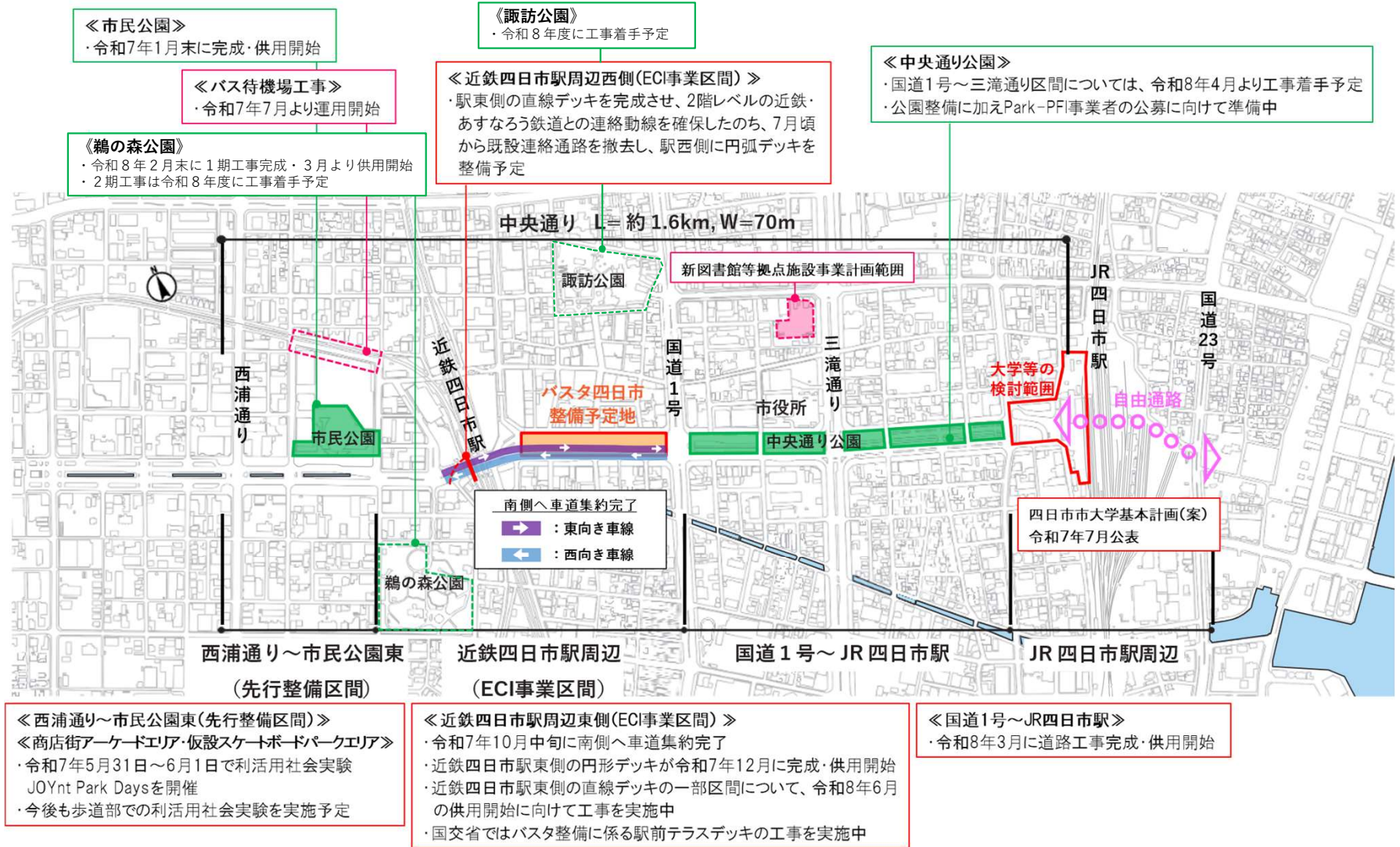
## ■ユーザーエクスペリエンスの変化

<p>市民</p>	<p><b>Before</b></p> <p>中心市街地がの混雑度合いや、どんなイベントをやっているか分からない...</p>	<p><b>After</b></p> <p>ポータルサイトを見て、いろいろなことが分かるようになった！</p>	<p>「ニワミチよっかいち」のポータルサイトから、中央通り周辺の混雑度合いや、イベントなど様々な情報を得られるようになりました。</p> 
<p>市民・来訪者</p>	<p>市内の公共交通の情報やまちのお出かけ情報がバラバラで分かりづらい...</p>	<p>四日市版MaaSを使えば、交通情報や目的地までの移動、施設情報をひとめでチェックできる！</p>	<p>四日市版MaaSを使うことで、まちなかの施設情報や自動運転を含む移動情報の入手が可能です。</p> 
<p>土地建物のオーナー</p>	<p>自分の土地や建物を活用してほしいが、どうすればよいか分からない...</p>	<p>沿道空間利用マネジメントシステムを使えば、使いたい人と使ってほしい人をマッチングできる！</p>	<p>沿道空間利用マネジメントシステム「シェアまちよっかいち」を使うことで、まちなかの空間を使いたい人と使ってほしい人とのマッチングが可能です。</p> 
<p>新しいサービスを始めたい事業者</p>	<p>中心市街地で、新しいサービスを始めたいけど、どうすればよいか分からない...</p>	<p>沿道空間利用マネジメントシステムを使えば、使いたい人と使ってほしい人をマッチングできる！</p>	<p>沿道空間利用マネジメントシステム「シェアまちよっかいち」を使うことで、まちなかの空間を使いたい人と使ってほしい人とのマッチングが可能です。</p> 
<p>埋設物事業者</p>	<p>中央通り沿道の開発によって埋設物を移設しなければいけないが、他社の地下インフラの状況が分かりづらい...</p>	<p>デジタルインフラ台帳を使えば、3Dでインフラの埋設状況が見られる！</p>	<p>デジタルインフラ台帳を使うことで、地下埋設物の状況を把握することができ、迅速な意思決定や災害時の早期対応が可能となります。</p> 



# 参考資料

## 【工事進捗状況】



### Ⅲ. 12の取り組み内容の進捗と今後の予定

- 01 ウォーカブル・ネットワーク、交通結節拠点としてのスマート・バスタの整備
- 02 待ち時間や移動時間を楽しめるモビリティの導入
- 03 ウォーカブル+ウェルネス環境の展開
- 04 パブリックスペースの可能性最大化
- 05 インタラクティブなストリートファニチャー
- 06 災害に強い中央通り
- 07 人流誘導による商店街活性化
- 08 スマート図書館
- 09 メタバース（デジタルツイン）
- 10 データプラットフォーム
- 11 3D都市モデル
- 12 スマート・インフラ

# 01 ウォーカブル・ネットワーク、 交通結節拠点としてのスマート・バスタの整備

## 取り組み概要 (実行計画より)

- 観光・賑わい創出の拠点
- 交通情報等の配信、乗り換え利便性の向上
- 脱炭素・レジリエント拠点
- バスバース、パブリックスペースの有効利活用

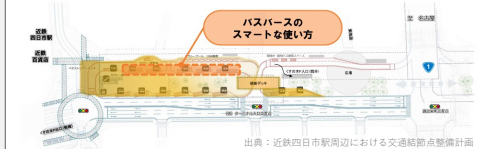


### 2022 (R4) 年度の検討状況

- バスタ検討部会等において、ターミナル施設形態や事業スキームの検討を具体化した。スマート・バスタの構築については、継続的に検討を行った。

#### 2) バス停のデジタル化によるスマートバスタの構築（中長期）

- ◆ バス停のデジタル管理により、曜日や時間帯に応じて空きバースを、多目的車両の利用や荷捌きスペースとしてシェアリング



### 2023 (R5) 年度の検討状況

- ターミナル施設の機能に応じたデジタルサイネージの画面サイズや表示内容を検討した。
- バスターミナル施設内の利用状況のモニタリングに用いるカメラの設置イメージ等に係る検討を行った。



デジタルサイネージの配置箇所（案）（R5～R6年度）

### 2024 (R6) 年度の検討状況

- 管理運営事業者とともに、施設運用及びデジタルサイネージ表示内容等の調整検討に着手した。

### 2025 (R7) 年度の検討状況

- 交通事業者とターミナルの円滑な運用について調整を行った。

### 2025 (R7) 年度終了時点の成果

- 利用者に配慮したターミナル運用計画の作成。

### 今後の予定

- 交通ターミナル整備工事の推進。



# 02 待ち時間や移動時間を楽しめるモビリティの導入

## 取り組み概要 (実行計画より)

- 多様なモビリティの導入
- マルチ・モビリティポートの設置
- 予約システムの構築（四日市版MaaS）



### 2022 (R4) 年度の検討状況

- 中央通りの道路空間を様々な用途に活用して見る賑わい創出社会実験にあわせて、来街者の回遊を促す交通手段の在り方を探る「まちなかモビリティ」の実証実験を実施した。
- 自動運転車両や小型カート、超小型電気自動車等による移動サービスの実証実験を行い、中央通り再編後の空間利用を共有した。

賑わい創出社会実験の様子



### 2023 (R5) 年度の検討状況

- 前年度の課題解決に向けて自動運転バスの実証実験を実施するとともに、モビリティポート（電動スクーター等）を設置し、試乗会を実施した。
- 「MaaS×まち歩き」をテーマとした四日市版MaaSの初期段階の体験として、デジタルスタンプラリーを実施した。

自動運転バスの実証実験 デジタルスタンプラリー画面



### 2024 (R6) 年度の検討状況

- 自動運転バスの技術・運行頻度に関する検証や、まちなかにおける移動手段（次世代モビリティ等）の提供を行う実証実験を実施した。
- 四日市版MaaSのプロトタイプ構築として、デジタルマップと交通情報（主要駐車場の満空情報、自動運転バス混雑度、三重交通バス位置情報等）を連携させ、デジタルポイントラリーの実施を通じ、参加者の移動履歴を検証した。



### 2025 (R7) 年度の検討状況

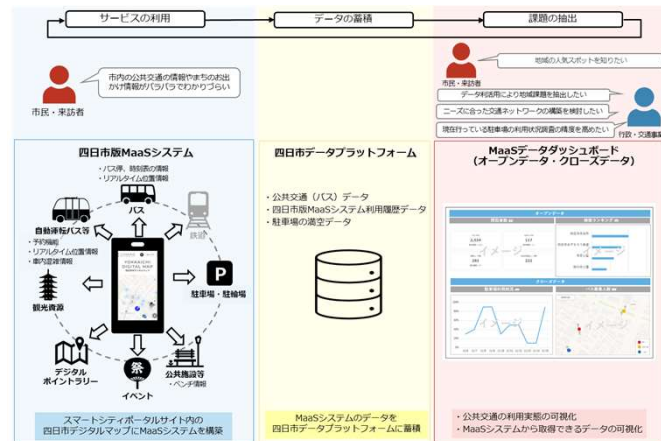
- 新しく供用を開始した中央通りの走行環境下で自動運転バスの実証実験を実施した。
- 駐車場の満空情報、観光情報、ベンチの場所などの情報を一元化することで、MaaSの機能を拡充した。
- データプラットフォームと連携したMaaSデータを分析・可視化するダッシュボードを構築した。

自動運転バスの実証実験  
(完成道路で走行)      ダッシュボード  
(デジタルマップ利用履歴)



### 2025 (R7) 年度終了時点の成果

- 市民や来訪者向けに、四日市デジタルマップにMaaSシステム（交通情報や施設情報を一元化）を構築。
- 蓄積されたMaaSデータを利活用できるダッシュボードの構築により、サービスの改善に向けたPDCAサイクルを回せる仕組みを整備。
- 自動運転バスやMaaSの実装は、中心市街地の回遊向上や賑わいの創出に寄与することが期待される。



四日市版MaaSの実装内容

### 今後の予定

- 継続運用が可能な公共交通情報を軸とした情報基盤の構築。
- 交通関連情報を四日市版MaaS上に一元的に集約し、日常的な移動の際に「移動時に参照される情報基盤」としての位置づけを確立。日常的・継続的に利用されるコンテンツの設計。
- 自動運転バスの定常運行に向けた取り組みの継続。

# 03 ウォーカブル+ウェルネス環境の展開

取り組み概要 (実行計画より)

- 四日市ウォーカブルマップの構築
- 快適なウォーカブル環境の展開



## 2022 (R4) 年度の検討状況

- R4年度賑わい創出社会実験で、屋外の混雑状況や環境などデータサーベイを実施した。

センサ設置によるデータサーベイの様子



## 2023 (R5) 年度の検討状況

- 近鉄四日市駅西側の先行整備区間において、歩行区間の再編等に合わせてスマート・インフラを導入した。
- 新設されたスマートポールにAIカメラ、環境センサーを設置し、取得データをデジタルマップ上で可視化する仕組みを構築した。

通行人数の可視化イメージ



デジタルマップのイメージ



## 2024 (R6) 年度の検討状況

- 2024年11月に中央通り沿いにデジタルサイネージを仮設置し、中心市街地の魅力発信コンテンツに加えて災害関連情報等を発信し、アンケート調査を通じて市民ユーザー等の反応を調査した。
- 2025年2月、市民公園にデジタルサイネージを本設置した。

デジタルサイネージによる中心市街地の魅力発信コンテンツ



## 2025 (R7) 年度の検討状況

- 過年度の取組を継続して実施した。

## 2025 (R7) 年度終了時点の成果

- スマート・ポールに設置したAIカメラ、環境センサーを活用して、デジタルマップ上で通行人数や環境との関連性等を含むウォーカブルな環境の視覚化を実現。
- 市民公園に設置したデジタルサイネージにおいて、中心市街地の魅力発信コンテンツを展開。

歩行空間とスマート・ポール



デジタルマップのイメージ



## 今後の予定

- 中央通りの整備に伴い、スマート・インフラを継続的に整備。
- 中央通り及び商店街における快適なウォーカブル環境を展開。

# 04 パブリックスペースの可能性最大化

## 取り組み概要 (実行計画より)

- パブリックスペースの現況把握と可視化
- 場所の予約システム、デリバリーサービスの展開
- パブリックスペースのフレキシブルな活用



### 2022 (R4) 年度の検討状況

- R4年度賑わい創出社会実験で、スケボーパークの設置や仮設店舗の出店を行い、使われ方等に関する情報を収集した。また、デリバリーサービスについても未実施ながらシステムを構築した。

賑わい創出社会実験の様子



### 2023 (R5) 年度の検討状況

- 令和5年度スマートシティ実装化支援事業で、中央通り沿道で活用可能な公共空間や民間遊休不動産の基礎調査を行った。

空き空間調査の様子



### 2024 (R6) 年度の検討状況

- 沿道の歩行者空間や低未利用地・空き店舗などを官民連携で一体的に取り扱うサービスを検討。
- 沿道空間利用マネジメントシステムとして、利活用空間ウェブサイト（ベータ版）を開発した。



### 2025 (R7) 年度の検討状況

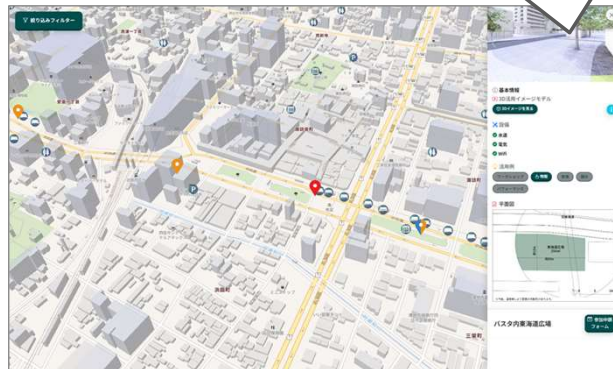
- 社会実験やシステム体験会を経て、ベータ版をブラッシュアップ、沿道空間利用マネジメントシステム（正規版）を構築した。

トップページと空間探しページのイメージ

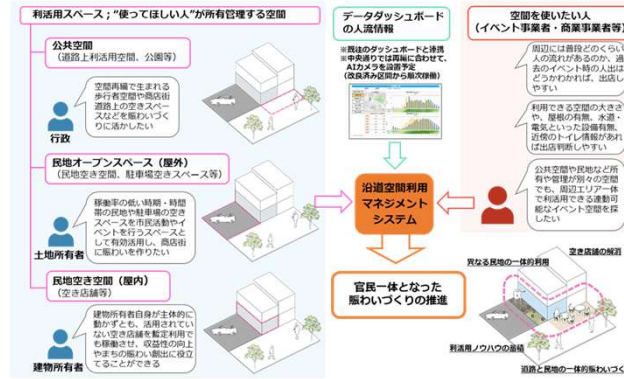


### 2025 (R7) 年度終了時点の成果

- 利用可能空間と、空間を利用したい人々を繋ぐ沿道空間利用マネジメントシステム「シェアまちよっかいち」をリリース。



街なかの利用可能な空間の情報が3Dイメージとともに入手可能



R7年度末の実装のイメージ

### 今後の予定

- 中央通り沿道において、利用可能な空間を増加（バスタ等）。
- 沿道空間利用マネジメントシステムの継続的な運用。
- 公共だけでなく地域のまちづくり組織等も含めた官民連携により、自律的・持続的な仕組みの構築を指向。

# 05 インタラクティブな ストリートファニチャー

- 照明による演出
- 人の動きに反応するエンターテインメント要素の付加



## 2022 (R4) 年度の検討状況

- 街路灯照明に色や動きを追加したライティング技術について、専門メーカーを交えた導入可能性に関する意見交換を行い、現地におけるデモンストレーションなどを実施しながら検討を実施。



## 2023 (R5)、2024 (R6) 年度の検討状況

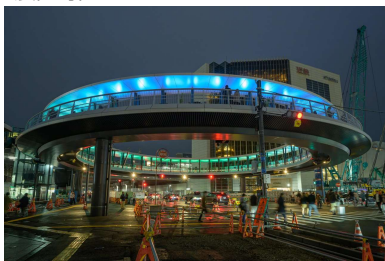
- スマート・インフラに設置したAIカメラや環境センサで取得したデータの可視化を行った。

## 2025 (R7) 年度の検討状況

- 円形デッキ（よんまるテラス）において、季節やイベントなど情報に合わせた色にライトアップできる装置を整備した。

## 2025 (R7) 年度終了時点の成果

- 歩行空間でのインタラクティブな照明の導入は見送り、季節やイベントなど、情報に合わせた色にライトアップできる円形デッキを整備した。今後、市民のニーズに応じた照明の変更等についても展開可能。



## 今後の予定

- よんまるテラスにおいて、イベントなどに合わせたライトアップを継続。





# 07 人流誘導による商店街活性化

## 取り組み概要 (実行計画より)

- 人流・混雑状況の可視化
- 人流の誘導
- 店舗側のマーケティング支援



### 2022 (R4) 年度の検討状況

- R4年度賑わい創出社会実験で、屋外の混雑状況や環境などのデータ収集と視覚化を含む社会実験を実施。



人流・環境データ等の視覚化

### 2023 (R5) 年度の検討状況

- 近鉄四日市駅西側の先行整備区間に新設されたスマートポールにAIカメラを設置。取得した人流データをスマートシティポータルサイト上で可視化する仕組みを構築した。
- 商店街側への人流の誘導に資する、沿道空間利用マネジメントシステムを検討した。



### 2024 (R6) 年度の検討状況

- 商店街関係者等との協議を経て、沿道空間利用マネジメントシステムとして、利活用空間ウェブサイトのベータ版を構築。空き店舗等の空間を使ってほしい人と、空間を使いたい人とのアンケートを行った。
- 収集されたデータを公園や商店街で有効活用するため、データプラットフォームワーキンググループにおいてワークショップを実施した。



利活用空間ウェブサイトのイメージ



● データプラットフォームWGのワークショップ

### 2025 (R7) 年度の検討状況

- 過年度の成果を受けて、商店街における実証を行い、そのアンケート結果等を踏まえて、利活用空間ウェブサイトをブラッシュアップ。
- 収集されたデータを中心市街地で有効活用するため、「公園DX」をテーマとして、データプラットフォームワーキンググループにおいてワークショップを実施した。



公園DXに係るワークショップ



### 2025 (R7) 年度終了時点の成果

- 近鉄四日市駅西側の先行整備区間に新設されたスマートポールにAIカメラを設置。
- 取得した人流データをスマートシティポータルサイト上で可視化する仕組みを構築。
- ニワミチ JOYnt(じょいんと) Park Daysを開催、沿道空間利用マネジメントシステムを活用し、一部の商店街エリアにおける賑わいを創出。
- 沿道空間利用マネジメントシステムのウェブサイト「シェアまちよっかいち」を公開。
- 商店街におけるデータ活用について、データプラットフォームワーキンググループにおけるワークショップを開催。



歩行空間における人流の視覚化



社会実験を通じた賑わい形成



「シェアまちよっかいち」の公開

### 今後の予定

- 中央通りに加え、商店街における人流測定の試行。
- 商店街への人流誘導の仕組みの検討。
- 人流データの可視化、利活用空間ウェブサイトの継続的運営。

# 08 スマート図書館

- デジタル技術を活用した効率的な図書館運営について検討
- 図書館周辺や中央通りにおける電子書籍閲覧を検討



## 2022 (R4) 年度の検討状況

- スターアイランド跡地に整備予定の新図書館について、基本設計を検討。

## 2023 (R5) 年度の検討状況

- 令和5年10月より、よっかいち電子図書館のサービスを開始した。コンテンツ数約20700点は東海3県で最多の規模。

## 2024 (R6) 年度の検討状況

- ICタグを使用した自動貸出機・自動返却ポスト・セキュリティゲートを導入。ICタグの活用により、利便性向上、業務の効率化につながった。
- 令和5年度に導入した電子図書館については、令和6年度で約24,000コンテンツとなった。

## 2025 (R7) 年度の検討状況

- よっかいち電子図書館を運営

## 2025 (R7) 年度終了時点の成果

- よっかいち電子図書館のサービスを開始。
- ICタグを使用した自動貸出機・自動返却ポスト・セキュリティゲートを導入。



## 今後の予定

- よっかいち電子図書館を継続的に運営。

# 09 メタバース (デジタルツイン)

- 様々なコミュニケーションツールとしての活用
- シティプロモーション
- 仮想空間と現実空間のハイブリッドによる市民生活の効率化や経済の活性化



## 2022 (R4) 年度の検討状況

- FIXER社がプロトタイプを構築し、R4年度賑わい創出社会にてデモンストレーションを実施。



## 2023 (R5) 年度の検討状況

- スマートシティ実装化支援事業の取り組みとして、FIXER社が構築したメタバースYOKKAICHIとテレビメディアを組み合わせた交流促進・情報発信の実証実験を実施。

テレビメディアと組合せた取り組みのイメージ

メタバースYOKKAICHI上での情報発信のイメージ



## 2024 (R6) 年度の検討状況

- 令和4～5年度のメタバースの実証実験を踏まえ、中央通りでの取り組みはメタバースに限ることなく他のツールの可能性についても広げていくこととし、令和6年度からは、スマートシティ実装化支援事業における「利活用空間活性化ツールの構築」「四日市版MaaSの構築」「バーチャル空間におけるコミュニケーション・ツールの構築」によりシティプロモーション、市民生活の効率化及び経済の活性化等に取り組んでおり、メタバースとしての取り組みの実施はなし。

## 2025 (R7) 年度終了時点の成果

- 「メタバースYOKKAICHI」のプロトタイプを公開、デモンストレーションを実施。
- メタバースYOKKAICHIとテレビメディアを組み合わせた実証を行った。
- 中央通りについては3D都市モデルが構築されたこともあり、今後は、中央通りに限らず、不登校児童等を対象にメタバースの導入を進めていく。

## 今後の予定

- 中央通りに限らず、メタバースの可能性について検討を進める。

# 10 データプラットフォーム

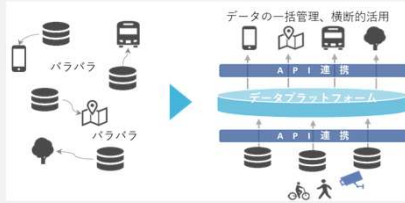
## 取り組み概要 (実行計画より)

- 公民学で連携して必要なデータを集約する
- 十分なセキュリティにより安全性を確保
- 新たなイノベーションの創出や、スマート化の取り組み全体の最適化



### 2022 (R4) 年度の検討状況

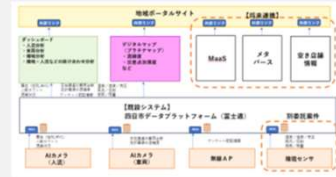
- スマート化に向けた様々なサービスを実現するため、公民学で連携して必要なデータを集約するためのデータプラットフォームの構築に着手。
- 2023 (令和5) 年3月から試験運用を開始。



データプラットフォームの仕組み

### 2023 (R5) 年度の検討状況

- 先行整備区間に設置されたスマート・インフラと連携し、データプラットフォーム上で人流データ、環境データの蓄積を開始。
- データプラットフォームを介した情報提供サービスの一つとして、ポータルサイト、ダッシュボード、デジタルマップを構築。



### 2024 (R6) 年度の検討状況

- 昨年度に引き続き、設置されたスマート・インフラと連携し、データプラットフォーム上で人流データ、環境データの蓄積、ポータルサイト、ダッシュボード、デジタルマップを運営。
- 四日市版MaaSの機能として、交通情報（主要駐車場の満空情報、自動運転バス位置及び混雑度、三重交通バス位置情報等）をデジタルマップと連携。
- オープンデータを活用し、中心市街地の課題を解決するアプリを開発する「四日市まちづくりハッカソン」を開催。



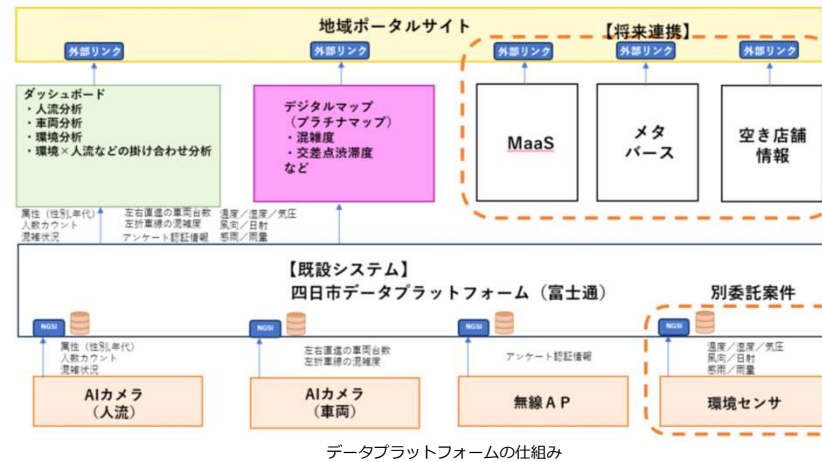
四日市版MaaSをデジタルマップと連携。 ハッカソンの概要

### 2025 (R7) 年度の検討状況

- 継続して、ポータルサイト、ダッシュボード、デジタルマップを運営。
- 利活用空間活性化ツールと連携。
- オープンデータ活用の検討の一環として、データプラットフォームWGでアイデアを検討。

### 2025 (R7) 年度終了時点の成果

- 四日市データプラットフォームを中心として、データ収集～公開、活用に至るシステムが完成。



データプラットフォームの仕組み

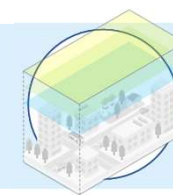
### 今後の予定

- 今後さらなるメニュー拡大を目指し、データプラットフォームの活用範囲を拡大。
- データプラットフォームのマネタイズの実践。
- 上記のためのマニュアル・ガイドラインの構築。 他

# 11 3D都市モデル

## 取り組み概要 (実行計画より)

- 3D都市モデルを構築し、オープンデータ化
- ユースケースを開発



### 2022 (R4) 年度の検討状況

- 国土交通省ProjectPLATEAUの補助事業を受け、3D都市モデルを整備。
- 災害リスク情報の可視化を実現。



### 2023 (R5) 年度の検討状況

- 3D都市モデルのユースケースの一つとして、中央通り再編後の姿を重畳。
- また、スマートシティ実装化支援事業の一環として、中央通りの地下埋設インフラの3Dデータ、属性情報を統合したデジタルインフラ台帳の構築に着手。

3D都市モデルで表現された中央通り再編後の姿



デジタルインフラ台帳のイメージ



### 2024 (R6) 年度の検討状況

- スマートシティ実装化支援事業の一環として、中央通りのデジタルインフラ台帳構築を推進。実際の運用時と同様に関係者（市および埋設事業者）のみがアクセスできる環境を構築し、デジタルインフラ台帳の有用性を確認。
- 埋蔵文化財の可視化を実現。

デジタルインフラ台帳の画面例 初期画面 (左)、断面表示 (右)



### 2025 (R7) 年度の検討状況

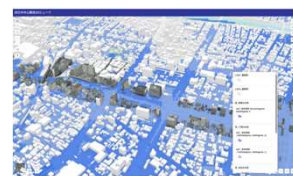
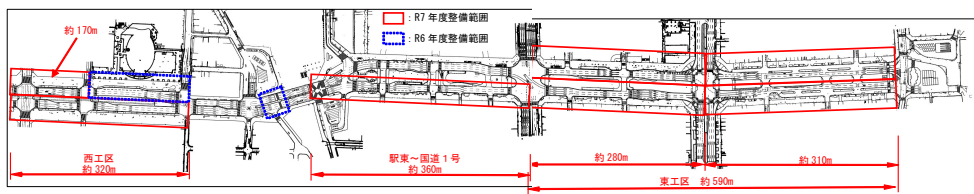
- 中央通りのデジタルインフラ台帳構築範囲を拡大。
- デジタルインフラ台帳の運用ルール等をまとめたガイドラインを作成。
- 沿道空間利用マネジメントシステム（正規版）において3D都市モデルとの連携を検討。

公共空間マッチングサービスとの連携



### 2025 (R7) 年度終了時点の成果

- Project PLATEAUの一環として、市全域の3D都市モデルを整備。
- 中央通りのデジタルインフラ台帳を構築するとともに、運用ルール等をまとめたガイドラインを作成。
- 将来的な活用を見据えたユースケースの一つとして、現地で地下埋設物の状況を確認できるARソフトの実証実験を実施。
- 中央通り再編後の姿を重畳
- 災害リスク情報、埋蔵文化財の可視化
- 沿道空間利用マネジメントシステム（正規版）において3D都市モデルの活用を検討



災害リスク情報（津波浸水想定区域）



埋蔵文化財



デジタルインフラ台帳

### 今後の予定

- 3D都市モデルの継続的運用。
- ユースケースのさらなる展開。
- デジタルインフラ台帳については、市が主体となって運用していくとともに、中央通りのうち工事未了部分の工事が完了次第、その部分の台帳整備を継続していく。
- 沿道空間利用マネジメントシステムにおいて、3D都市モデルとの連携を検討。



## IV. KPIの達成状況

目指す将来像	サービス設定	No.	取り組み内容	KPI	進捗率 (最新値/R8目標値)							
					R3 (策定時値)	R4	R5	R6	R7	R8目標値		
交通利便性が高く歩きたくなるまち (Walkable & Mobility)	サービス/ まちなか ウォーク ブル・ネット ワーク	1	ウォークブル・ネットワーク、交通結節拠点としてのスマート・バスタの整備	<b>中心市街地の歩行者流量</b> ※四日市総合計画より本実行計画の目標年に合わせて設定	平日	60,116人 (平成30年度)	52,090人	53,777人	52,793人	未	60,700人	86.97%
				休日	58,406人 (平成30年度)	50,021人	53,973人	59,250人	未	62,400人	94.95%	
		2	待ち時間や移動時間を楽しめるモビリティの導入	<b>路線バス利用者数</b> ※近鉄四日市駅前における三重交通バスと三岐鉄道バスの平日1日あたりの乗降者数の合計	7,979人/日 (平成30年度)		5,597人/日	6,085人/日	6,220人/日	未	8,000人/日	77.75%
快適で安全に生活できるまち (Green & Energy)		3	ウォークブル+ウェルネス環境の展開	<b>中心市街地の歩行者流量</b> ※四日市総合計画より本実行計画の目標年に合わせて設定	平日	60,116人 (平成30年度)	52,090人	53,777人	52,793人	未	60,700人	86.97%
				※国土交通省スマートシティ実装化支援事業のKPIより引用	休日	58,406人 (平成30年度)	50,021人	53,973人	59,250人	未	62,400人	94.95%
健やかでかつ賑わいのあるまち (Festivity & Wellness)	サービス/ 使える・楽しめるパブリックスペース	4	パブリックスペースの可能性最大化	<b>新たに整備される中央通りのオープンスペースにおけるイベント開催件数</b>	0件/年		1件/年	1件/年	1件/年	1件/年	6件/年以上	16.67%
		5	インタラクティブなストリートファニチャー	<b>中心市街地の歩行者流量</b> ※四日市総合計画より本実行計画の目標年に合わせて設定	平日	60,116人 (平成30年度)	52,090人	53,777人	52,793人	未	60,700人	86.97%
快適で安全に生活できるまち (Green & Energy)		6	災害に強い中央通り	KPIの設定は行わなかったものの、効果的な手法について検討を進めた。その手法のひとつとして、データプラットフォームを通じた災害時情報のオープン化およびデジタルサイネージを活用した適切な災害情報伝達方法については、国土交通省のスマートシティ実装化支援事業の令和6年度に行った災害時を想定した情報伝達実験において、被験者の行動観察等を個別にKPIに設定し、システムの有用性等の検証を行った。令和7年度末でシステムが実装化されることから、令和8年度以降に効果検証を進める。	休日	58,406人 (平成30年度)	50,021人	53,973人	59,250人	未	62,400人	94.95%
				7	人流誘導による商店街活性化	<b>商店街の空き店舗数</b> ※四日市総合計画より本実行計画の目標年に合わせて設定	12.1% (平成30年度)		10.70%	10.20%	9.90%	未
健やかでかつ賑わいのあるまち (Festivity & Wellness)	サービス/ 交流・賑わいのバリューアップ	8	スマート図書館	<b>中心市街地の歩行者流量</b> ※四日市総合計画より本実行計画の目標年に合わせて設定	平日	60,116人 (平成30年度)	52,090人	53,777人	52,793人	未	60,700人	86.97%
		9	メタバース(デジタルツイン)	※四日市総合計画より本実行計画の目標年に合わせて設定	休日	58,406人 (平成30年度)	50,021人	53,973人	59,250人	未	62,400人	94.95%
データ活用によるサービス提供、イノベーション創出(Accessible & Innovation)	ソフト・インフラ	10	データプラットフォーム	<b>データプラットフォームの閲覧数</b> ※デジタルマップの閲覧件数。R6年度から本格運用開始 * R7年度数値は令和8年3月18日現在の数値 ** R7年度数値/R8年度目標値	0件/年		—	—	40,927件	16,977件*	50,000件	33.95%**
		11	3D都市モデル	<b>3D都市モデルを活用したユースケース件数</b>	0件		1件	2件	3件	4件	5件以上	80.00%
	ハード・インフラ	12	スマート・インフラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—

はじまりのいち(整備前の空間)  
中央通りリストリートサーキット(整備前の空間)  
ニワミチスポット(整備済み区間)  
ニワミチJOYntParkDays(整備済み区間)

災害リスク(浸水)の可視化  
中央通り再編計画の重量  
埋蔵文化財の可視化  
デジタルインフラ台帳

## V. 関係者一覧

事業主体の名称	四日市スマートリージョン・コア推進協議会（実行計画の推進主体）	
事業主体の構成員	地方公共団体代表 有識者  幹事会員	: 四日市市 : 東京大学大学院 村山 顕人 名城大学理工学部 松本 幸正 早稲田大学大学院創造理工学研究科 有賀 隆 : 近畿日本鉄道株式会社 三重交通株式会社 三岐鉄道株式会社 三重県タクシー協会/株式会社三交タクシー 学校法人みえ大橋学園 株式会社近鉄百貨店 四日市商工会議所 株式会社ディア四日市 近鉄グループホールディングス株式会社 近鉄不動産株式会社 株式会社シー・ティー・ワイ 株式会社三十三銀行  中部電力株式会社 国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所 三重県
	賛助会員	: 株式会社FIXER 株式会社マクニカ 株式会社VACAN 株式会社日建設計 FUTURE株式会社 富士通Japan株式会社 早稲田大学  オブザーバー : 国土交通省 都市局 街路交通施設課
実行計画の期間等	令和4（2022）年度～令和8（2026）年度（予定）	

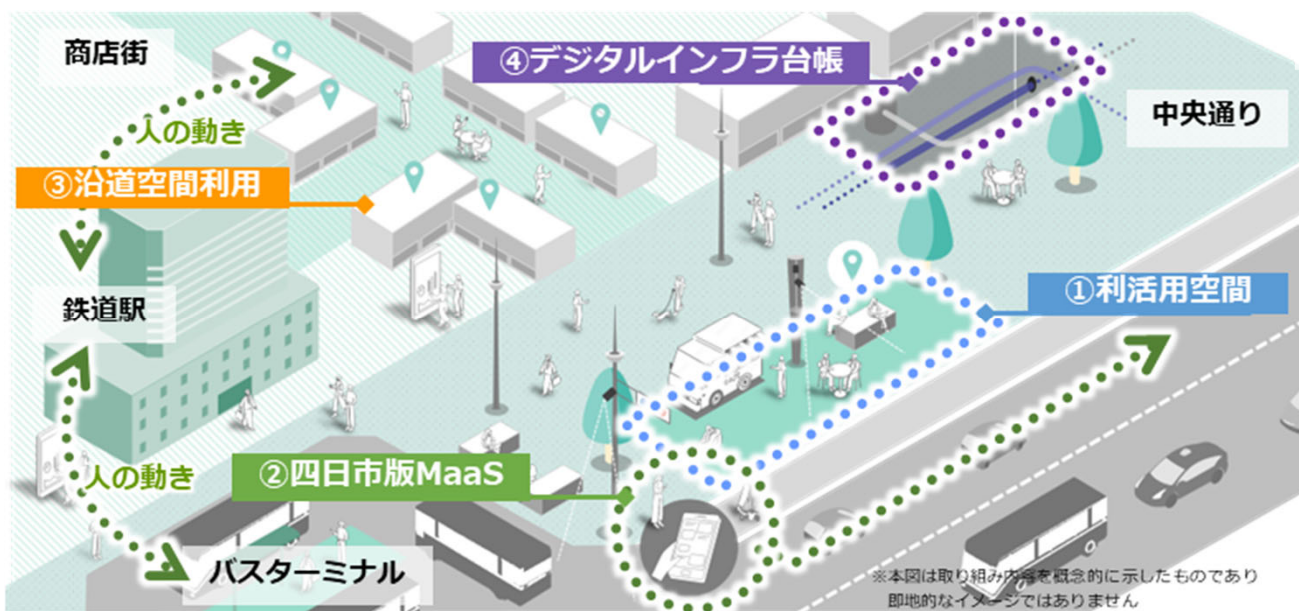
(敬称略\_順不同)



四日市スマートリージョン・コア  
スマートシティ実装化支援事業の報告

四日市スマートリージョン・コア推進協議会

# スマートシティ実装化支援事業 取組概要



スマートシティポータルサイトをオープンし、デジタルマップ上でスマートインフラ等にて取得した各種データを可視化



←近鉄四日市駅西側先行整備区間においては、既にAIカメラ等を含むスマートインフラ及び利活用空間が整備済み

中央通り沿いの混雑状況や環境データを可視化するダッシュボード→



## 中央通り再編事業の波及効果を促進し、持続的・自律的なまちづくりを推進するスマートシティサービスの実装

四日市市では、中央通り再編事業等により中心市街地の活性化を進めている。その波及効果を促進しつつ、持続的・自律的なまちづくりを推進するスマートシティサービスの実装を目指し下記①～④の取り組みを進めている。

**今年度は3か年の実証の最終年度にあたる。**

### ①利活用空間活性化ツールの構築

中央通り（人通り・気候・道路の情報等）の状況がリアルタイムで分かり、イベントの促進に寄与する必要なデータが得られるサービスを構築

### ②四日市版MaaSの構築

徒歩と公共交通機関での移動に付加価値を付け、まちなかの回遊性を促すサービスの構築

### ③沿道空間利用マネジメントシステムの構築

誰もがチャレンジできる場を提供するため、気軽に利用できる広場や歩道、空き店舗を可視化し、貸し借りができるサービスを構築

### ④デジタルインフラ台帳の構築

沿道の土地利用を促進するため、開発にかかる関係者間の調整を支援するサービスを構築

# スマートシティ実装化支援事業 各取組の概要

①

## 利活用空間活性化ツールの構築

## R7年度実証事業の内容とKPI達成状況

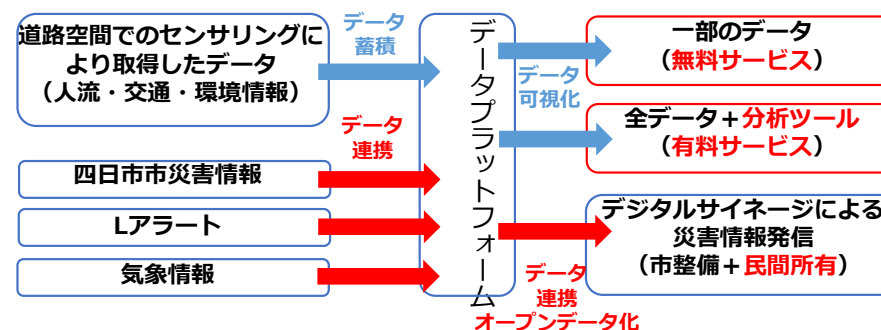
### ■実証実験の内容

#### 1) 利活用空間利用者等に対するデータ提供実証実験

蓄積された人流および混雑度等のデータをパッケージ化し、不動産開発事業者や広告代理店業者、都市関連研究者等へデータ提供を行い、有用性やデータ可視化サービスの価格設定についてアンケートを実施した。

#### 2) 災害情報コンテンツ効果検証を実施

発災直後の災害情報コンテンツを自動で提供し、中央通り周辺におけるサイネージ保有事業者へオープンデータ化された災害情報の優位性を周知するとともに、API連携方法を案内し、事業者保有サイネージとの親和性や連携手順についての課題をアンケートにより抽出を行った。



### ■KPIの達成状況

検証項目	検証方法	目標(KPI)	概要	判定
データ可視化サービスの効果検証	データ検証実証実験 (アンケート調査)	・ 5段階評価でデータの市場価値があるとの回答が5割以上	キッチンカーの事業者など市内の事業者20以上にアンケート調査を実施	○
		・ 価格設定が適切との回答が6割以上		△
	災害情報連携の水平展開の可能性調査 (アンケート調査)	・ 公共・民間が管理するデジタルサイネージを対象として、導入コスト(超概算)及び技術面の課題等を提示したうえで、災害情報連携の可能性があると回答を被験者の5割以上から得る	中心市街地の範囲において、デジタルサイネージを所有または今後整備予定の公共機関及び民間企業にアンケート調査を行う (サイネージ10箇所程度を想定)	○

## R7年度実証事業の結果と今後の展開

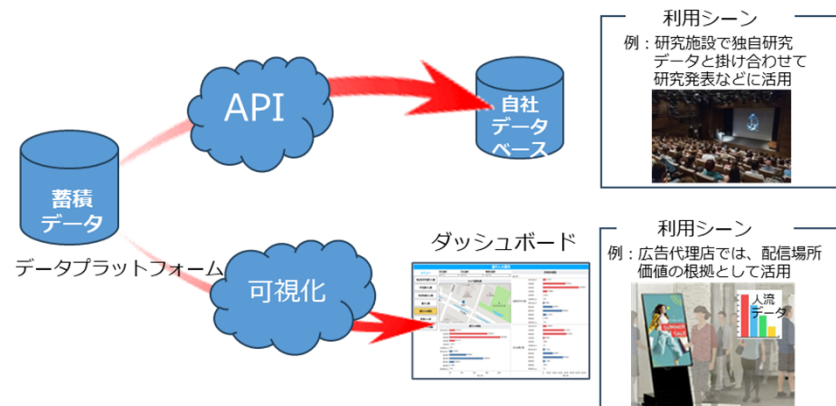
### 1) 利活用空間利用者等に対するデータ提供実証実験

#### ■結果概要

#### データ提供サービスの市場性とビジネスモデル

アンケートの結果、全体の5割以上から、データの市場価値があるとの回答を得た。一方、「初期費用・月額利用料ともに適切」との回答は4.5割で、「案件・期間による」との回答も多く、未だ有効な活用事例が少ない、という意見もあった。

R7年度の実証を通じて、データサービス提供方法として、データプラットフォームAPI連携サービス型と可視化ダッシュボードサービス型を設定し、データ販売による部分的な収益化モデルの可能性が示唆された。



データサービス提供方法パターン

#### ■課題及び今後の展開

#### データのマネタイズ等を通じた持続可能な維持管理方法の検討

令和8、9年度にデータ可視化サービスPR活動など知名度向上を推進し、令和10年度有償化本格サービス開始を目標に検討を進める。

今後は維持管理費の低減、セミナー・展示会出展、学会・産学連携セッションでの活用促進により認知度を高める方策など、持続可能な仕組みのための環境を育てていくことが重要である



#### データ利用者拡大のための取組

上に示したような認知度向上、データ利用拡大のための取組を行いつつ、民間による利用が拡大していくことで、公共の負担が減少していくような持続可能な仕組みを目指す。

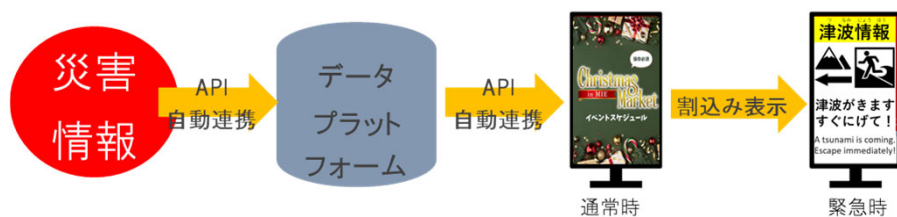
## R7年度実証事業の結果と今後の展開

### 2) 災害情報コンテンツ効果検証を実施

#### ■ 結果概要

#### 災害情報連携の水平展開の可能性に関する評価結果

公共・民間が管理するデジタルサイネージを対象としたアンケートの結果、災害情報連携の可能性があるとの回答を全社から得られた。



災害情報発信 システムの概念図



デジタルサイネージの連携可能性調査の対象

#### ■ 課題及び今後の展開

#### 民間所有サイネージとの災害情報連携の水平展開

企業側にとっては、災害情報収集方法が「間接的」「受動的」になっており情報収集が体系化されていない点や、災害情報の通信媒体としてのサイネージの活用は理解する一方、行政側からの補助等を望む声もあった。

#### 連携可能な民間所有サイネージの発掘・システムの拡大

実現に向けて、行政機関による民間サイネージ活用等の可能性を検討する。

# スマートシティ実装化支援事業 各取組の概要

②

## 四日市版MaaSの検討

## ②四日市版MaaSの構築

# R7年度実証事業の内容とKPI達成状況

### ■実証実験の内容

#### 1) MaaSデータダッシュボードに関するアンケート

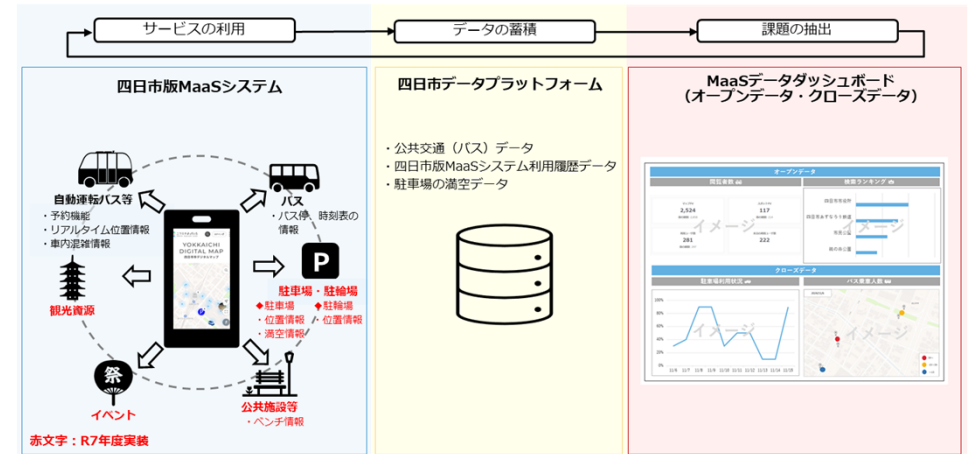
想定されるユーザーにプロトタイプのダッシュボードを試行してもらい、その有用性についてアンケートを実施する。

#### 2) 四日市デジタルマップへのアクセス数を計測

既存情報の拡充と新規情報の構築による影響を把握するため、取組実施前後における四日市デジタルマップへのアクセス数の推移を計測する。

#### 3) 四日市版MaaSと連携したイベント時のこにゅうどうレンタサイクルの利用者数を計測

BAURAミーティングの会場までレンタサイクルを利用したアクセス方法の告知等を行い、利用者増加を計測する。



### ■KPIの達成状況

検証項目	検証方法	目標	概要	判定
①MaaSデータダッシュボードの有用性	アンケート調査	5段階評価で各カテゴリの設問に対して、5割以上が肯定的（スコア4以上）の回答 ・ユーザーインターフェースの観点 ・継続利用性の観点	MaaSデータダッシュボード利用者へのアンケート調査を実施	○
②スマートシティポータルサイトへのアクセス数	四日市デジタルマップのアクセス数を計測	新規情報構築後のアクセス数が5,000件/月以上 (2025年10月～2026年1月)	機能拡充と新規構築による四日市デジタルマップへのアクセス数と取組み前後の推移を計測 (R6年度では約4,000件/月)	△
③四日市版MaaSの満足度	アンケート調査	5段階評価で各カテゴリの設問に対して、5割以上が肯定的（スコア4以上）の回答 ・ユーザーインターフェースの観点 ・有用性の観点	四日市デジタルマップ利用者へのアンケート調査を実施	○
④施設利用者数の増加	こにゅうどうレンタサイクルの利用者数を計測	過年度のイベント時の利用者（28人）と比較して、利用者が23人※増加（目標利用者数51人） ※前年度イベント来場者数（約2,300人）の1%、JR・近鉄側で相互利用可能なため、全体で23人増を目標	中心市街地で開催されるイベント時のこにゅうどうレンタサイクルの利用者数の増加傾向を計測 (前年度のイベント時の貸出回数28台)	前回報告済 △ { 貸出回数 37台 }

## R7年度実証事業の結果と今後の展開

### ■ 結果概要

#### MaaSデータダッシュボードの有用性

「ユーザインターフェース（操作画面の構成）」、「継続利用」のいずれの評価も5割以上が肯定的となった。改善点として「デバイスを選ばない見やすさ」や「他の分析軸とのかけあわせ」等が挙げられた。

#### スマートシティポータルサイトへのアクセス数

月平均1,976件で、目標5,000件に対し未達となった。自動運転実証実験と連携した期間においては、目標値に近い水準まで改善したものの、期間限定の要素が強く、施策終了後には利用が減少していく点に課題がある。

#### 四日市版MaaSの満足度

「使いやすさ」「有用性」のいずれの評価も5割以上が肯定的となった。役立つ情報として公共交通情報、自動運転情報が挙げられていたことから、交通情報の充足が満足度向上につながる事が確認された。

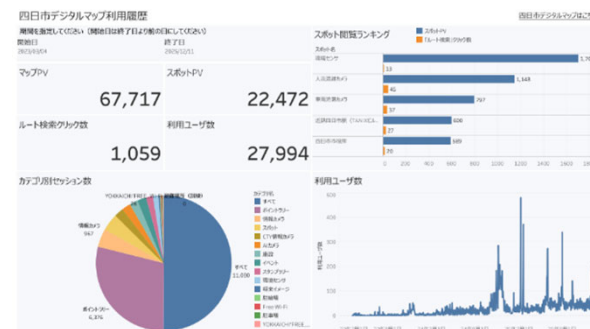
### ■ 課題及び今後の展開

#### 「移動時に参照される情報基盤」を中心とした四日市版MaaSの進化

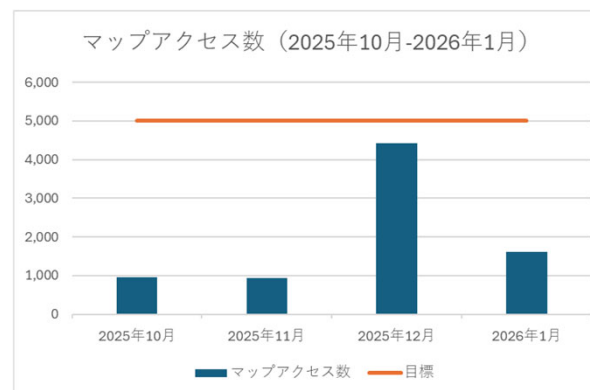
日常的な移動時に参照される情報基盤としての機能に加え、中心市街地における取組やまちなかの環境情報についても整理・掲載することで、情報基盤としての価値を高める。

#### 運用体制の構築

段階的な展開を想定し、将来的には認知度や施策への影響度が向上し、広告掲載や施設・店舗等との連携といった展開も視野に入れた、持続可能な運用につながる環境を整備していく。



四日市デジタルマップの利用履歴ダッシュボード



スマートシティポータルサイトへのアクセス数結果

# スマートシティ実装化支援事業 各取組の概要

③

バーチャル空間におけるコミュニケーション・ツールの構築  
沿道空間活用マネジメントシステムの構築

### ③沿道空間利用マネジメントシステムの構築

## R7年度実証事業の内容とKPI達成状況

### ■実証実験の内容

#### 正式版（ドラフト）の構築

R6年度の実証結果を踏まえた与件整理、システム改修案の作成を行い、正式版（ドラフト）を構築した。具体的には、対象場所の空間情報に3D都市モデルの画面の閲覧機能、サービス対象のオープン化、対象エリア拡大、人流データ取得ポイント・予約状況・活用実績等を追加した。また、昨年度のシステム体験会で得られた意見を基に、トップページ構成の簡素化、ボタンデザインの改善、絞り込みフィルタの視認性向上、空間情報ポップアップの全画面表示化等を実施した。



#### 社会実験・システム体験会等におけるヒアリング・アンケートの実施

2025年5月・6月に、中央通り周辺において社会実験「ニワミチJOYnt Park Days」を実施。また、2025年12月・2026年1月には、構築した正式版（ドラフト）を用いてシステム体験会を実施。商店街関係者・社会実験協力者、および大学関係者に対して、システムを試用してもらい、マッチングを促進するための人流データの有用性、使用者評価情報の有用性、効果的な情報表示方法、使い勝手、商店街活性化への寄与についてヒアリング・アンケートを実施した。



トップページと空間探しページの改修イメージ

「ニワミチJOYnt Park Days」の社会実験

### ■KPIの達成状況

検証項目	検証方法	目標	概要	達成状況
システム環境とユーザビリティの適正性の検証	商店街関係者および社会実験協力者へのアンケート・ヒアリング調査	5段階評価で7割以上の事業者がポジティブな評価	アンケート・ヒアリング調査により、利用者ニーズの反映、2D地図をもとにした3D都市モデルの一部利用、エリアの拡大、オープン化によるシステムの使い勝手の向上などの効果を検証する	○
システムによる商店街活性化の効果検証	商店街関係者および社会実験協力者へのアンケート・ヒアリング調査	システムを利用することによる商店街活性化への期待する回答が7割以上等	アンケート・ヒアリング調査により、システムの利用を通じた新たなビジネス・民間投資への意欲や、オープンスペース及び沿道の未利用の土地・建物への興味、商店街活性化への意欲や期待値の向上などの効果を検証する	○

## R7年度実証事業の結果と今後の展開

### ■ 結果概要

#### システムのユーザビリティと情報有用性

前年度の課題を踏まえた改修により、システムの操作全体のスムーズさについては88%のポジティブな評価を獲得し、昨年度の51%から大幅に改善した。

一方で、情報の有用性に対するポジティブな回答は全体の48%となり昨年度の62%を下回った。これは、昨年度よりも粒度の細かい情報を掲載でき、掲載情報量自体は増加した一方で、情報が増えたことによりユーザーは細部まで完成度の高い情報を期待するようになった可能性がある。

今後は、情報量を適切に整理しつつ「知りたい情報がある」状態から「使える情報として整っている」状態へ近づけることができると考えられる。

#### 商店街活性化への寄与

本システムが商店街の活性化への期待が高まったと回答した割合は71%となり、KPIを達成した。

### ■ 課題及び今後の展開

#### 正式版のリリースと運用

実証実験の結果を踏まえ正式版をリリース、R8年度から本格的な運用を開始する。過年度の経緯を踏まえ、段階的な改善を継続しながらサービスを運用する。

#### 運用体制の段階的移行とルールの精査

現段階では四日市市がシステム管理者となっているが、将来的には地域のまちづくり組織への業務委託を通じて、システム運用を段階的に地域主体へ移行していく。そのために、システム管理にあたってのルールの精査等を行う。

システム画面



空間情報ポップアップページとカルテのイメージ

# スマートシティ実装化支援事業 各取組の概要

④

中央通りにおける3D都市モデルを活用した  
プランニング／マネジメント・ツールの構築  
デジタルインフラ台帳の構築

## ④デジタルインフラ台帳の構築

### R7年度実証事業の内容とKPI達成状況

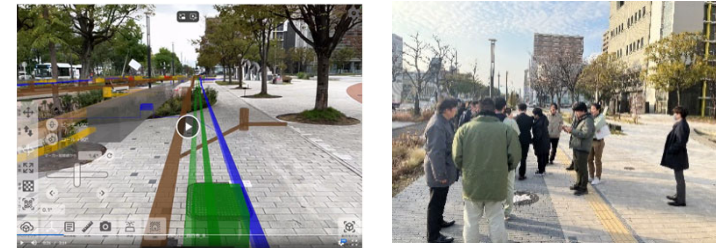
#### ■実証実験の内容

##### デジタルインフラ台帳の運用体制・ルールの実証

モデル変更・更新作業に向けたガイドライン・マニュアルを作成し、各関係者の使い勝手（主にデータの管理・やり取りの使い勝手・運用の手間（コスト））についてアンケートを実施する。

##### ARソフトを活用した現場確認実験の実施

発注者・設計者・施工者・地下埋設事業者を対象にARソフトを活用した実証、埋設物破損事故防止効果・災害復旧時の機能回復迅速化、災害時の復旧への活用と工数削減効果等についても検証を行った。



デジタルインフラ台帳体験会の状況

#### ■KPIの達成状況

検証項目	検証方法	目標	概要	検証結果	判定
<b>KPI①</b> デジタルインフラ台帳の運用に必要な体制・ルール	・デジタルインフラ台帳の運用に携わる市及び埋設物事業者等へのアンケート	①運用に関する体制・ルールについて「今回の体制・ルールであれば導入可能」という回答が9割以上 ②「R7時点で実装可能」という回答が2社以上	①最適な運用の体制・ルール等を設定し、その内容について関係者に説明し、「問題はない」という回答の割合を調べる。 ②「この前提で実装及び運用可能」という埋設物事業者の割合を調べる。	①運用に関する体制・ルールについて「今回の体制・ルールであれば導入可能」という回答が94%（16人中15人）であった。 ②「R7時点で実装可能」という回答が、5社中4社であった。	① ○ ② ○
<b>KPI②</b> デジタルインフラ台帳の利用を促進するためのユースケースの有効性	・ARソフトを活用した現場確認実験 ・埋設物破損事故防止効果、災害復旧時の状況確認・機能回復の迅速化等についてのアンケート ・災害復旧時に台帳を活用した場合の工数シミュレーション	①ユースケースの有効性を認める回答が過半数を占める ②破損事故防止、災害復旧に効果があるという回答が7割以上 ③災害復旧時の検討にデジタルインフラ台帳を活用した場合の工数について2割以上の削減効果	①アンケートに自由記述欄を作成し、更なるユースケースのアイデアの収集を行う。 ②また、想定される利用方法について収集を行う。 ③災害復旧時の検討については、デジタルインフラ台帳を活用した場合の工数削減効果を推定検証した結果についての妥当性を調べる。	①ユースケースの有効性を認める回答が「ある」「ややある」を含めると100%（15人中15人）であった。 ②破損事故防止、災害復旧に効果があるという回答が「有効」「やや有効」を含めると100%（15人中15人）であった。 ③災害復旧時の検討にデジタルインフラ台帳を活用した場合の工数削減効果についての回答が「妥当」「やや妥当」を含めると93%（15人中14人）であった。	① ○ ② ○ ③ ○

## R7年度実証事業の結果と今後の展開

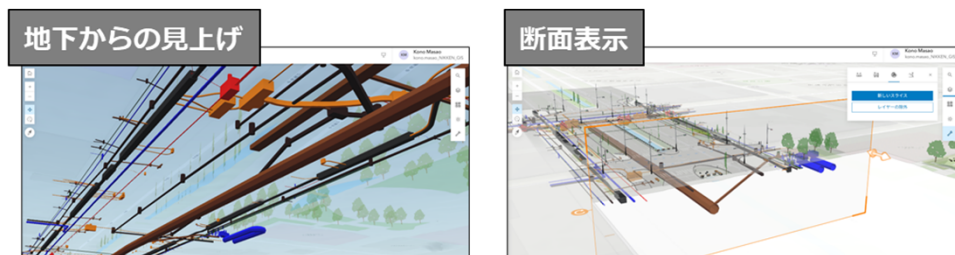
### ■結果概要

#### デジタルインフラ台帳の運用体制・ルール

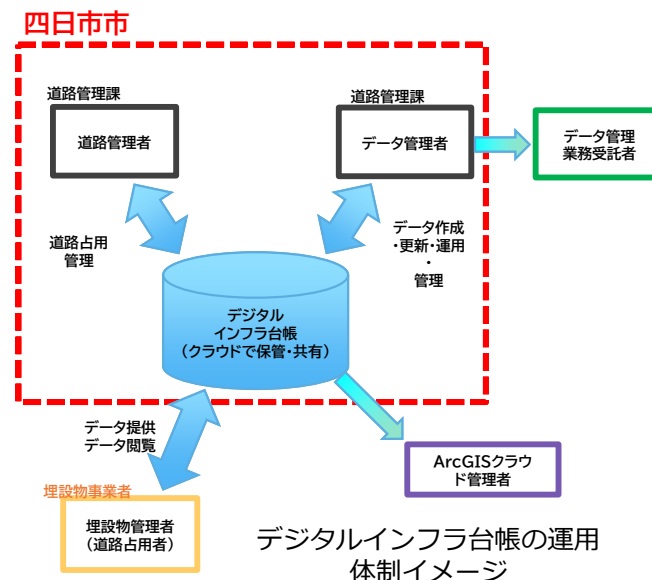
大多数の関係者が現時点での実装・運用を可能と評価し、埋設物事業者の多くがR7年度時点での実装が可能と回答した。デジタルインフラ台帳の有効性についても約9割が肯定的に評価した。

#### ARソフトを活用したユースケースの有用性

ARソフトを活用した現場確認について、埋設物破損事故防止効果と災害復旧時への活用に対して全員が有効性を認めた。災害復旧時の工数削減効果についても、2D図面使用時と比較して工数を約60%削減できることが確認された。



デジタルインフラ台帳のイメージ



### ■課題及び今後の展開

#### データ利用対象者の拡大

現時点ではデータ利用対象者が埋設物事業者に限定されているが、今後、データ公開範囲を拡大するためには、データ利用者の管理方法、情報の公開に伴うセキュリティ、情報に対する責任範囲などについて、検討が必要である。

#### 運用体制の最適化

デジタルインフラ台帳におけるデータの作成・更新・運用・管理は、道路管理者が担うことになっているが、地下埋設物に関する情報を関係者間で共有するシステムなど先行する動向等も踏まえ、検討が必要である。

#### 地下埋設物3D都市モデル先進事例としての知見の全国共有

本取組で得られた知見を全国の自治体と共有し、地下埋設物の3D都市モデルの普及を促進する。

目指す将来像	サービス設定	No.	取り組み内容	KPI	R3 (策定時値)						R9	進捗率 (最新値/R8 目標値)	
					R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値			
交通利便性が高く歩きたくなるまち (Walkable & Mobility)	サービス/ まちなか ウォカブル・ネット ワーク	1	ウォカブル・ネット ワーク、交通結節拠点と してのスマート・バスタ の整備	<b>中心市街地の歩行者流量</b> ※四日市総合計画より本実行計画の目標年に合わせて設 定	平日	60,116人 (平成30年度)	52,090人	53,777人	52,793人	未	60,700人	取組継続	86.97%
					休日	58,406人 (平成30年度)	50,021人	53,973人	59,250人	未	62,400人		94.95%
<b>路線バス利用者数</b> ※近鉄四日市駅前における三重交通バスと三岐鉄道バス の平日1日あたりの乗降者数の合計					7,979人/日 (平成30年度)		5,597人/日	6,085人/日	6,220人/日	未	8,000人/日		77.75%
快適で安全に生活 できるまち (Green & Energy)	サービス/ 使える・楽し めるパブリッ クスペース	2	待ち時間や移動時間を楽 しめるモビリティの導入	<b>高速バス利用者数</b> ※近鉄四日市駅前における高速バスの平日1日あたりの乗 降者数の合計	244人/日 (平成30年度)		126.2人/日	145.4人/日	143.4人/日	未	300人/日	取組継続	47.80%
					<b>中心市街地の歩行者流量</b> ※四日市総合計画より本実行計画の目標年に合わせて設 定					平日	60,116人 (平成30年度)	52,090人	53,777人
健やかでかつ賑わ いのあるまち (Festivity & Wellness)	サービス/ 使える・楽し めるパブリッ クスペース	3	ウォカブル+ウェルネ ス環境の展開	※国土交通省スマートシティ実装化支援事業のKPIより引 用	休日	58,406人 (平成30年度)	50,021人	53,973人	59,250人	未	62,400人	実装完了	94.95%
					<b>新たに整備される中央通りのオープンス ペースにおけるイベント開催件数</b>					0件/年	1件/年	1件/年	1件/年
健やかでかつ賑わ いのあるまち (Festivity & Wellness)	サービス/ 使える・楽し めるパブリッ クスペース	4	パブリックスペースの可 能性最大化	<b>中心市街地の歩行者流量</b> ※四日市総合計画より本実行計画の目標年に合わせて設 定	平日	60,116人 (平成30年度)	52,090人	53,777人	52,793人	未	60,700人	実装完了	86.97%
					休日	58,406人 (平成30年度)	50,021人	53,973人	59,250人	未	62,400人		94.95%
健やかでかつ賑わ いのあるまち (Festivity & Wellness)	サービス/ 使える・楽し めるパブリッ クスペース	5	インタラクティブなスト リートファニチャー	KPIの設定は行わなかったものの、効果的な手法について検討を進めた。 その手法のひとつとして、データプラットフォームを通じた災害時情報のオープン化およびデジタルサイネージを活用した適切な災害情報伝達方法について は、国土交通省のスマートシティ実装化支援事業の令和6年度に行った災害時を想定した情報伝達実験において、被験者の行動観察等を個別にKPIに設定し、 システムの有用性等の検証を行った。 令和7年度末でシステムが実装化されることから、令和8年度以降に効果検証を進める。							実装完了		
					<b>商店街の空き店舗数</b> ※四日市総合計画より本実行計画の目標年に合わせて設 定					12.1% (平成30年度)		10.70%	10.20%
健やかでかつ賑わ いのあるまち (Festivity & Wellness)	サービス/ 交流・賑わ いのバリュー アップ	6	スマート図書館	<b>中心市街地の歩行者流量</b> ※四日市総合計画より本実行計画の目標年に合わせて設 定	平日	60,116人 (平成30年度)	52,090人	53,777人	52,793人	未	60,700人	実装完了	86.97%
					休日	58,406人 (平成30年度)	50,021人	53,973人	59,250人	未	62,400人	実証完了	94.95%
データ利活用によ るサービス提供、 イノベーション創 出 (Accessible & Innovation)	ソフト・ インフラ	7	メタバース (デジタルツイン)	<b>データプラットフォームの閲覧数</b> ※デジタルマップの閲覧件数。R6年度から本格運用開始 * R7年度数値は令和8年3月18日現在の数値 ** R7年度数値/R8年度目標値	0件/年		—	—	40,927件	16,977件*	50,000件	取組継続	33.95%**
					<b>3D都市モデルを活用したユースケース件 数</b>					0件	1件	2件	3件
データ利活用によ るサービス提供、 イノベーション創 出 (Accessible & Innovation)	ハード・ インフラ	8	スマート・インフラ	—							—		
					災害リスク (浸水)の可視化					中央通り再編計画 の重畳	埋蔵文化財 の可視化	デジタルインフ ラ台帳	

※令和10年度以降については、ソフト事業について協議会の場でご意見をいただきながら取組を進めていく。

令和7年度四日市スマートリージョン・コア推進協議会 第3回幹事会  
出席者名簿

別添1

3月30日(月) 10:30~12:00  
四日市商工会議所 3階 大会議室(オンライン併用)

区分	所属	氏名	出欠	随行	現地/オンライン	
幹事会 役員	有識者	東京大学 大学院 工学系研究科 教授	村山 顕人	○		現地
		名城大学理工学部 社会基盤デザイン工学科 教授	松本 幸正	○		オンライン
		早稲田大学 理工学術院 教授	有賀 隆	○		オンライン
	交通 関係者	近畿日本鉄道(株) 鉄道本部 名古屋統括部 施設部長	三重 和宣	○	名古屋統括部施設部工務課 主査 牧野 修幸(オンライン)	オンライン
		三重交通(株) 取締役	高田 和昭	○	企画部 部長 小瀬古 恵則(現地)	現地
		三岐鉄道(株) 自動車部 運行管理課 課長	伊藤 眞郷	○		現地
		(三重県タクシー協会北勢支部) (株)三交タクシー 代表取締役社長	内山 宣哉	○		現地
	商工関係者 大規模権利者 事業展開企業	学校法人みえ大橋学園 理事長	大橋 正行	欠席		—
		(株)近鉄百貨店 四日市店 営業推進部 マネージャー	木室 康弘	○		オンライン
		四日市商工会議所 専務理事	山下 二三夫	○		現地
		近鉄グループホールディングス(株) 総合政策本部 事業推進部 部長	赤井 智明		代理出席 総合政策本部 企画推進部 課長 森 有一郎	現地
		近鉄不動産(株) 名古屋事業本部 賃貸事業部部長	吉田 健	○		オンライン
		(株)シー・ティー・ワイ 取締役 営業部 部長	伊藤 秀明	○	営業部 次長 山本 龍太郎(現地)	現地
		(株)三十三銀行 営業本部営業企画部 営業企画課 課長	臼井 智博	○	営業企画部 企画役 森田 宏(オンライン) 上席主任 三浦 大樹(オンライン)	オンライン
		中部電力(株) 事業創造本部 部長	黒木 信彦	欠席		—
	行政	国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所 副所長	伊藤 秀則	欠席		—
		三重県 県土整備部 都市政策課 副課長	笠 匡司	○		オンライン
		四日市市 副市長	荒木 秀訓	○		現地
	賛助会員	(株)日建設計 都市社会基盤部門 CM測量部長	中村 出	○	都市社会基盤部門 CM測量部 アシエイト 河野 正雄(オンライン) アシエイト 豊島 香須弥(オンライン)	現地
		早稲田大学 理工学術院 講師	小松 萌	○		オンライン
		(株)マクニカ スマートシティ&モビリティ事業部 スマートモビリティ事業推進部 部長	福田 泰之	○	スマートシティ&モビリティ事業部 スマートモビリティ事業推進部 担当 奈良岡 龍一(現地) CPSソリューション開発部 担当 高木 克真(オンライン) 担当 矢部 維(オンライン)	現地
オブザー バー	国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路交通施設安全対策官	高濱 康亘	○	都市局 街路交通施設課 課長補佐 渡邊 和(オンライン) 二輪駐車場係長 村川 達郎(オンライン)	オンライン	
	国土交通省 中部地方整備局 建政部 都市整備課 課長	後藤 直紀	○		オンライン	
	国土交通省 中部運輸局 交通政策部 交通企画課長	江川 晃平	○	交通政策部 交通企画課 専門官 田中 秀和(オンライン) 調査員 竹内 貴大(オンライン)	現地	
	国土交通省 中部運輸局 三重運輸支局 企画調整担当 首席運輸企画 専門官	森 慶之	○		オンライン	

事務局	行政	四日市市 政策推進部	部長 川口 純史
		四日市市 政策推進部 政策推進課	参事兼課長 矢澤 眞太郎
		四日市市 危機管理統括部 危機管理課	課長 芝田 茂
		四日市市 シティプロモーション部 観光交流課	課長 大橋 剛
		四日市市 商工農水部 商業労政課	課長 桑 昌洋
		四日市市 商工農水部 工業振興課	課長 釜瀬 俊之
		四日市市 環境部 環境政策課	課長 赤堀 剛亮
		四日市市 総務部 デジタル戦略課	課長 林 雄士
		四日市市 総務部 デジタル戦略課 行政DX推進室	室長 吉田 純平
		四日市市 都市整備部 都市計画課	課長 蟹江 伸次郎
		四日市市 都市整備部 都市計画課	公共交通推進室長 藤田 貴
		四日市市 都市整備部 都市計画課	計画GL 橋本 幹人
		四日市市 都市整備部 市街地整備課	課長 戸本 直弥
		四日市市 都市整備部 市街地整備課	副参事兼課長補佐 伊藤 直人

